

<令和7年度>

鳥取県文化芸術事業

評価報告書

《本編》

鳥取県文化芸術事業評価委員会

～ 目 次 ～

1 総合評価	1
2 実施結果概要	
(1) 実施事業一覧	3
(2) 評価の体系	3
3 事業別評価	
(1) 第23回鳥取県総合芸術文化祭・とりアート2025次世代育成事業(鳥取県総合芸術文化祭実行委員会)	4
(2) 第23回鳥取県総合芸術文化祭・とりアート2025展示事業(Ⅱ)	10
(3) 第69回鳥取県美術展覧会(鳥取県地域社会振興部文化政策課)	16
(4) 第23回鳥取県ジュニア美術展覧会(Ⅱ)	21
(5) 第49回・第50回鳥取演劇連盟合同公演(鳥取県演劇連盟)	29

(参考)

・鳥取県文化芸術事業評価委員会 委員名簿	34
・鳥取県文化芸術事業評価委員会 事業別評価報告書執筆担当一覧	35
・鳥取県文化芸術事業評価委員会 評価委員会の開催状況	35
・鳥取県文化芸術事業評価委員会設置要綱	36

(別冊) 令和7年度 鳥取県文化芸術事業 評価報告書《資料編》

1 総合評価

【本年度の評価方法】

- ・評価方法について、事業実施者の策定した取組目標や行動計画に基づき、それらの達成度を評価する構成は基本的に昨年度（従来）と同様であり、評価の段階は「達成」、「概ね達成」、「一部達成」、「未達成」の4段階とし、それぞれ3点、2点、1点、0点と数値化し、達成度を確定した。また、各事業の総括を行い、「成果」、「課題」、「その他事業に関する意見、感想」に事業の全体評価を評価委員の視点で記載している。
- ・取組目標及び行動計画の設定並びに達成度評価の視点として、県が策定している「アートピアとっとり行動指針」に掲げる施策の方向性との関連及び前年度の事業評価での課題に対しての対応がより明確となるよう、事業評価シートの作成にあたり留意すべき事項を事業実施者と評価委員で共有し、本年度の事業評価を実施した。具体的には、「取組目標」の設定にあたっては、同指針の内容と前年度の課題を十分に踏まえ、「行動計画」には、「掲げる取組目標を達成するための具体的な取組事項」、「そのために工夫した事項」、「前年度からの見直し事項」等を具体的に記載し作成することとしている。

【本年度の事業評価】

- ・すべての事業において、広報や事業内容において様々な工夫や改善を取り入れながらアートに触れ親しむ環境づくりに知恵を絞り成果を上げていることに敬意を表したい。
- ・広報面において、従来からの紙媒体（ポスター・チラシ）にはQRコードを付けてHPに誘導し、事業内容に関心を持てるような工夫を期待したい。また近年取り入れられているHPやSNSの活用についてはプロ等の手を借りるなど（予算的な制約はあるが）コンテンツ面で工夫を検討されたい。
- ・さらに事業者間で交流・情報交換し、他事業での課題解決の手法、取り入れる良い点などの新たな気づきを促す取り組みも期待したい。

（1）とりアート事業（とりアート 次世代育成事業・展示事業（2事業））

- ・次世代育成事業「おいでよ！ココロはずむ音楽会 ワークショップ&コンサート 音と光の動物園」は、エースパック未来中心と県立美術館を繋いで実施されたものであり、梨記念館や美術館企画展来場者など参加者の幅を広げるとともに気軽に文化芸術を体験できる場を提供できた。
一方県立美術館とエースパック未来中心という離れた会場をスタンプラリーでつなぎ一体感を出す工夫はあったが、会場が離れることからその導線上に何らかの誘導の仕掛けが必要と感じた。
美術館や大学等の連携により、それぞれの専門性を生かしたワークショップや、演奏・映像デジタルアートが融合した音楽コンサートなど多彩なプログラムを通じて、多様な文化芸術に触れる機会を創出し、幅広い年代にアートへの興味関心を高める契機となった。また、複数の施設を繋げることで、それぞれの施設の持つ機能や魅力が組み合わせられることで、より幅広いアート体験が得られ、複合的な文化芸術体験の場としての価値が発揮できた。
- ・展示事業「COLOR MIX TORIART2025」は今年度2回目の開催になり、昨年度より出品数は増加したものの依然として少ないとの意見もあり、課題を整理するとともに関係機関との連携などにより出品を促進する環境整備に取組まれたい。この事業により若手アーティストが制作した様々なジャンルの作品の鑑賞機会を提供することで、若手アーティストの発表機会の確保と県民の関心を広げる有意義な取り組みとなっている。
また会場で若手アーティストのギャラリートーク企画を求める声もあり、若者の出番を創出する取り組みも期待したい。
この事業の一環として「未来をえがこう！絵画作品展」を実施されるなど、他事業との連携などにより多くの方の鑑賞の機会の創出にも配慮されたい。

（2）鳥取県文化政策課主催事業（第69回鳥取県美術展覧会、第23回鳥取県ジュニア美術展覧会（2事業））

- ・鳥取県美術展覧会は、SNSやHP等を積極的に活用する広報が成果を上げ、入場者数が増加するとともに30代以下の若手鑑賞者が増加した。県立美術館の開館及びその活用が奏功したことにより6年ぶりに来場者数が1万人を超えた。今後も県立美術館の開館効果を活用して、さらなる充実を期待する。
- ・鳥取県ジュニア美術展覧会は、創造性のある作品、構図や配色の技術の高い作品が多く見受けられるなど近年レベルが高くなっている。また県立美術館の開館効果により新たな来場者の獲得につながっている。
なお、昨年と比較して出品数が減少しているが、部門別にみると増加している部門もある。また地域ごとに出品部門の偏りがあることから、原因の分析と対策を検討されたい。

(3) 鳥取県文化団体連合会加盟団体主催事業（第49回・第50回鳥取県演劇連盟合同公演）

- ・県内の演劇集団が一堂に会し、同一会場で公演を行うという前例のない新しい取り組みを成し遂げた。年齢や団体の枠を超え、地域内の劇団が共同し、県内演劇文化の活性化に大きく寄与した。
また、舞台や客席を手作り、音響・照明を劇団員自身が担うなど、演劇祭全体が「手づくりの文化芸術活動」として成立しており、そこに世代間の技術継承も見られた。さらにQRコードによるアンケート回収やSNS発信など新しい取り組みも行われた。今後も県内演劇文化の持続的な発展に向けた活動を期待したい。

【今後の評価に向けて】

- ・引き続き取り組み目標及び行動計画の設定並びに達成度評価の視点として、県の第2期「アートピアとっとり行動指針」に掲げる施策の方向性との関連がより明確となるよう、事業評価シートの作成に当たり留意すべき事項を事業実施者と評価委員で共有し、事業評価を実施していく。

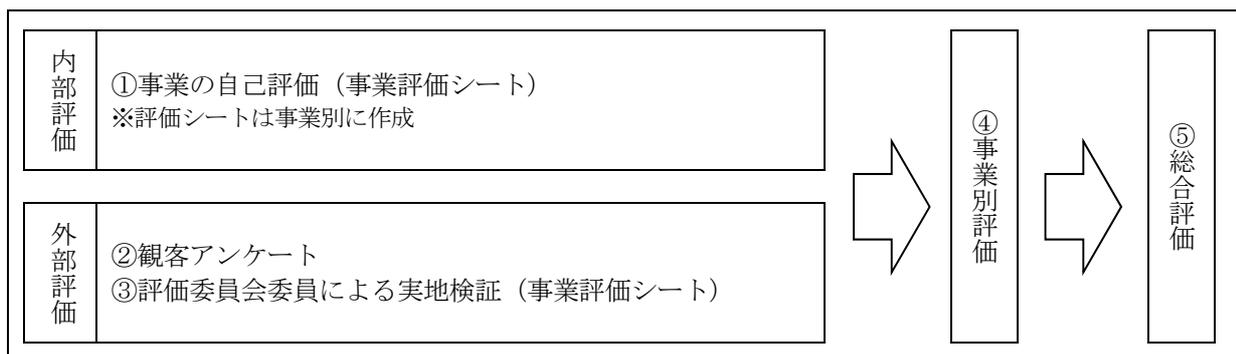
令和8年3月
鳥取県文化芸術事業評価委員会
会長 谷口透

2 事業実施概要

(1) 実施事業一覧

番号	主体	団体名	事業名	実施日	実績				
					入場者数	アンケート配布数	アンケート回収数	アンケート回収率	満足度
1	鳥取県総合芸術文化祭実行委員会	鳥取県総合芸術文化祭実行委員会	第23回鳥取県総合芸術文化祭・とりアート2025次世代育成事業	令和7年 10月11日(土)・ 12日(日)	延べ 1,220 人	296枚	153枚	48%	89%
2			第23回鳥取県総合芸術文化祭・とりアート2025展示事業	令和7年11月28日 (金)～12月28日 (日)	1,274 人	1,274枚	724枚	56.8%	77.7%
3	鳥取県	地域社会 振興部文 化政策課	第69回鳥取県美術展覧会	令和7年 9月13日(土) ～11月2日(日)	10,715 人	10,715枚	5,474枚	51.1%	84.9%
4			第23回鳥取県ジュニア美術展覧会	令和7年11月28日 (金)～令和8年1 月18日(日)	5,423 人	5,423枚	2,302枚	42.4%	98.7%
5	鳥取県文化団体連合会	鳥取県演劇連盟	第49回・第50回鳥取県演劇連盟合同公演	令和7年8月9日 (土)・24日(日)・ 30日(土)・31日 (日)	637人	261枚	183枚	78.4%	92.6%

(2) 評価の体系



3 事業別評価

第23回鳥取県総合芸術文化祭・とりアート2025 次世代育成事業

令和7年10月11日（土）・12日（日）鳥取県立美術館 ほか

【文化芸術事業評価シート】

目的	自己評価			評価委員による評価
	取組目標	行動計画	達成度及び 評価理由	達成度及び評価理由
文化芸術に親しむ環境づくり	誰もが文化芸術に親しむことができるようにするための環境づくり	<p>・11日のワークショップでは、東京藝術大学と計画しアートワークショップ、申込不要且つ無料で誰でも参加できるものとして県立美術館の企画による美術に親しめる絵巻物作り、県社会教育課による自然体験活動などのプログラムを複数実施する。ワークショップ以外の目的で会場に来場している方もその場で気軽に体験できる内容とする。</p> <p>・12日のコンサートは0歳から入場可能とし、楽器クイズや子どもでも分かる楽曲解説を曲間に組み込み、演奏中は壁面に映像を投影するなど、初めてでも楽しんで鑑賞できる催しとする。</p>	<p>達成度：達成 【成果】</p> <p>・11日は、複数のアートワークショップを無料、一部を除き申込不要としたことでエースパック未来中心や梨記念館及び美術館企画展来場者の参加など、参加者の幅を広げるとともに気軽に文化芸術を体験できる場を提供できた。</p> <p>・11日に県立美術館の企画によって完成した絵巻物をエースパック未来中心のアトリウムに展示することで、誰も美術に親しむ機会を提供した。</p> <p>・楽器に親しみを持てるクイズや解説、質の高い生演奏に合わせたアニメーション、親子で並んで座れる客席づくりなどの工夫により、アンケートでは「親子で楽しめた」「子どもに聴かせられてよかった」といった声が寄せられ、気負わずに劇場で鑑賞できる環境づくりに繋がった。</p>	<p>達成度：達成 【成果】</p> <p>11日は複数のワークショップをエースパック未来中心や県立美術館で実施したことにより、他の目的で来場された方の参加もあり、幅広い年齢層が参加するイベントになった。</p> <p>参加者は複数のワークショップに参加される方が多く見られ、それぞれがアートに触れるきっかけを体感し、笑顔からは満足度も高かったと推し測れた。</p> <p>鳥取短期大学の学生が参加しており、子供たちの対応に一役買い、和やかな雰囲気を出してくれた。</p> <p>12日のコンサートは幼児に配慮した設定で、半土間にして自由な姿勢で鑑賞できるように配慮されていた。</p> <p>子供たちが作ったアートをデジタルアートに昇華させることで、参加者に新たなアートのスタイルを感じさせる取り組みでもあったこと、そのアートをクラシックコンサートにおける背景動画に使用することで、芸術へ参加した充実感が得られる極めて興味深い取り組みであった。</p> <p>楽器の紹介や擬音のクイズなど、楽器音楽に親しめる工夫も取り入れられていた。</p> <p>自分が作成した作品がスクリーン上で動き出す、驚きと喜びのステージであった。</p>

	<p>・各ワークショップを巡って楽しんでもらうことを目的とした「ぐるっとスタンプラリー」を11日に実施する。スタンプラリーの対象となるブースは、県立美術館、未来中心リハーサル室・アトリウムの各ワークショップ会場に設置し、ものづくりへの参加やブースで動物を探すなどしてスタンプを入手する内容であり、全てのスタンプを入手した場合は景品を獲得できることとなっている。無料で参加が可能であり、目的を持って美術館と未来中心を巡ることができる催しとする。</p>	<p>達成度：概ね達成 【成果】 ・「スタンプを集める」という目的を持って取り組めるスタンプラリーを実施したことで、参加者が自主的・自発的に会場内を移動し、各ブースでものづくりへの参加や動物探しに挑戦することが可能となり、より主体的に参加・体験する動機づけとなり、全体として参加者の満足度向上に繋がった。</p> <p>【課題】 ・県立美術館とエスパック未来中心間の移動に於いて、通りすがりの人や時間がない人にとっては気軽に参加できる距離ではなかった。興味はあるが、今日は参加が難しいといった方も中にはあり、そのような場合も参加できる仕組みとして、景品獲得への条件を2段階に分けるなど検討する必要がある。</p>	<p>達成度：概ね達成 【成果】 複数の施設・会場で連携したイベントを開催し、各ワークショップを巡る仕掛けとして「スタンプラリー」を実施したことで、参加者がより自主的に、挑戦するきっかけ作りが出来ていた。 また、スタンプラリーを実施したことで各イベントの一体感を作り上げていた。</p> <p>【課題】 県立美術館とエスパック未来中心の移動に距離があり、その間をつなぐ場所に誘導や行ってみたいくなるような工夫があってもよかった。 また、リハーサル室への導線は比較的照明が暗いため、参加者を会場へいざなうようなワクワク感が演出されるとよいと感じられた。</p>
	<p>・子どもを主な対象とした事業であり、県内の子どもたちに広く情報が届くよう、「チラシ」を幼稚園・こども園・保育園・小学校に配付する。また、その親世代が最も利用する「SNS」を効果的に駆使しながら情報発信に努める。</p>	<p>達成度：概ね達成 【成果】 ・会場である鳥取県中部を中心に各園及び小学校にチラシの配付を行い、結果として11日には延べ870名の来場、12日のまるっと体験ツアー及びコンサートでは、定員満了となり、多くの参加を促すことができた。</p> <p>・アンケート結果より来場者層のうち10歳未満と30～40代が約8割を占めたことからターゲット層である親子への訴求が効果的であったと考えられる。</p> <p>【課題】 ・情報発信ツールとしてSNSの積極的な発信も必要であったが、発信頻度や各ワークショップの内容を掘り下げて魅力を紹介するなどの工夫が十分とは言えず、さらなる改善の余地があった。</p>	<p>達成度：概ね達成 【成果】 中部地域を中心にチラシ等を配布された結果、広報媒体でチラシが6割を占めている。また、コンサートでは東部より3割の来場があったことからホームページ等の効果も期待できる。 また来場者の8割が親子連れということからターゲットに情報が的確に届いていることが推察できる。</p> <p>【課題】 コン서트と比較して、ワークショップへの参加者は中部が8割、東部が1割ということから、ワークショップの内容をSNS等で紹介するなどにより、中部地域以外からの集客の向上に向けた工夫が必要と思われる。 子ども連れには自宅から会場までの距離が離れていると、参加しにくいという理由が考えられる。様々な制約はある</p>

				と考えるが、東部・中部・西部の巡回型事業が望まれる。
【前年度の課題】 ※前年度評価対象外				
文化芸術が育む・文化芸術を育む人づくり	子どもたちがアートを鑑賞、体験、実践する機会の充実	11日には、東京藝術大学と計画したアートワークショップ、県立美術館の企画による美術に親しめる絵巻物作り、県社会教育課による自然体験活動を開催するなどして、質の高い多彩なアート体験を実現する。 また、対象者に条件はなく、誰でも参加可能なワークショップも多く取り入れ、幅広い年齢の子どもたちが体験できる機会を広く提供する。	達成度：達成 【成果】 ・各ワークショップでは、完成した作品を持ち帰れるものや、自分の描いた絵が作品の一部になるもの、デジタル技術を活用して創造力を刺激する内容など、気軽に参加できながらも充実したアート体験が提供できた。 ・景品付きのスタンプラリーによって、各ワークショップ参加への動機付けにも繋がった。	達成度：達成 【成果】 東京芸大のアートワークショップを活用し、絵巻物とデジタル技術のコラボなど質の高い多彩なアート体験で構成されている。 数種類の動物の台紙が用意され子供たちが思い思いの色付けをし、描いた動物がデジタル技術で動き出したときに驚きの声を上げ、感動していた。
		12日には、美術館と未来中心を巡りながら企画展鑑賞やワークショップを体験できる「まるっと体験ツアー」を開催することで美術・音楽・アートを一連の流れで楽しめる内容とする。ツアーは美術学芸員の解説とともに企画展を巡り美術に親しみ、ペーパークラフトやデジタル遊びを経て、最後に県出身アーティストの生演奏と映像が一体となった参加型コンサートを鑑賞できる充実した内容を計画する。	達成度：達成 【成果】 ・「まるっと体験ツアー」は事前申込で定員に達し、開催前から高い関心と期待が寄せられた。各ワークショップでは30～60分という限られた時間の中で、絵画鑑賞・クラフト作り・デジタル遊びなど、ジャンルを横断したアートを体験し、子どもたちの可能性や創造力を育む感動と成長の場づくりへと繋がった。 最終的に、自分が作ったペーパークラフトが生演奏とともにアニメーションで動き出す場面では、参加者自身の作品がコンサートの一部として関わる喜びや楽しさを感じられる機会となった。	達成度：達成 【成果】 ・「まるっと体験ツアー」の各ワークショップでは限られた時間の中で、絵画鑑賞・クラフト作り・デジタル遊びなど、様々なジャンルをまさに「まるっと」体験し、子どもたちの可能性や創造性を感じることができた。 学芸員から事前に作品鑑賞の説明があり、実際に作品を鑑賞するには子供が興味を持てるようなクイズ、製作の意図など説明が加えられた。 自分が作ったペーパークラフトがデジタル技術で生演奏とともにアニメーションで動き出す場面では、コンサートに関わられた喜びや楽しさを感じられる貴重な機会となった。
【前年度の課題】 ※前年度評価対象外				
文化芸術による元気な地域づくり	文化芸術による地域の活性化	・コンサートにおいて、県出身のアーティストを多く起用することにより、「地元出身アーティストを応援する」という共通の目標から地域の一体感を高めると共に、地域の誇りや親近感を与え、地元愛を高めることを実現する。 ・県立美術館をはじめ、県内	達成度：達成 【成果】 ・演奏について、アンケート結果からも大変良い評価であることが分かる。鑑賞者の中には、現在楽器を習っているという子もおり、「自分もいつかステージに立ちたい」という気持ちを生み出し、未来のアーティスト育成にもつなげる一歩と	達成度：達成 【成果】 コンサートで県出身のアーティストを起用したことで、来場者が地元の優れた演奏者の演奏に触れる貴重な機会となった。 アンケート結果から8割以上が満足という高い評価を得られている。

	<p>関係団体と協力連携を図ることで、世代を問わず地域住民がアートの楽しさや魅力を再発見するだけでなく、文化活動者の活動の活性化や、日常的にアート鑑賞・体験の機会が増えるきっかけに繋げる。</p>	<p>なった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県出身アーティスト、県立美術館、東京藝術大学、県教育委員会、鳥取短期大学、倉吉北高等学校（ボランティア）及び地自治体等、様々な団体との協力体制のもと多彩なアートワークショップ、美術館ツアーやコンサートを展開することができた。 ・地域に根ざしたアート体験の場が広がり、地域と教育、そして文化芸術が一体となった取り組みへと繋がった。さらには、関係団体や出演者、関係者同士の交流が生まれたことで、今後の協働体制が築かれ、活動の継続や発展に向けた基盤が形成された。 	<p>祖父母から孫までが一緒に楽しめるコンサートは数少ない機会であろう。</p> <p>また、子供に質の良い芸術を鑑賞させたいという保護者のニーズに応えられている。</p> <p>多くの関係者に支えられた、みんなで作り出した芸術の機会であった。</p> <p>入場者数も目標 600 人の約 2 倍の 1,220 人であった。文化芸術を通して地域の活性化に一役買っていた。</p>
<p>【前年度の課題】</p> <p>※前年度評価対象外</p>			
達成度集計		(16 / 18) ≒ 89%	(16 / 18) ≒ 89%

【定量目標・実績】

	目標	実績	(参考) 昨年度実績
① アンケート回収率 (%)	60%	(2日間平均) 48%	— %
② 観客満足度 (%)	80%	(2日間平均) 89%	— %
③ 入場者数 (名)	(2日間延べ) 600人	(2日間延べ) 1,220人	— 人

【自己評価総括】

<p>【成果】</p> <p>・美術館や大学との連携により、それぞれの専門性を活かした参加型アートワークショップや、演奏・映デジタルアートが融合した音楽コンサートなど多彩なプログラムを通じて、ジャンルの垣根を越えて多様な文化芸術に触れる機会、感動を共有する場や創造力や表現力を育む機会を創出し、幅広いアートへの興味関心を高めるきっかけに繋がったことは大きな成果であった。また、美術館と劇場を巡るツアーでは、両施設のもつ機能や魅力が組み合わさることで、参加者の感性が多面的に刺激されるなど、より深く豊かなアート体験が得られた。</p> <p>・2日間にわたるワークショップ・コンサートと複数プログラムを織り交ぜたことで、アートイベントとしての賑わいを高め、参加者の滞在時間や満足度の向上、複合的な芸術体験の場としての価値を強化できた。</p>

<p>【課題】</p> <p>・アートワークショップや、動物の謝肉祭コンサート、まるっと体験ツアーなど複数のプログラムについて、事前に定員に</p>

達し受付終了したものもあったが、もう少し内容を掘り下げて広く紹介できる広報について工夫する必要があった。

・情報発信としては目的を達成したが、想定より多くの来場があり、アンケートの配布が追いつかず、配布数が来場者数に対して見合わない結果となった。家族での来場が多く、1家族1枚配布するケースもあったことも要因の一つとして考えられる。

・「まるっと体験ツアー」受付方法に関して、専用フォーム受付と当日整理券渡しを予定していたものの、事前にプレイガイドから整理券を受け取った方、同伴保護者で事前にコンサートチケット購入していない方などが混在したため、分かりやすい販売方法への工夫が必要であった。

【その他事業に関する意見、感想など】

・東京藝術大学のプログラムは、教育的な要素と高い芸術性を兼ね備えており、今回の次世代育成事業の枠組みで実施した子ども向け企画に加え、幅広い世代が学びや感動を得られるプログラムも数多く展開されている。今後の事業展開にあたっては、県内の活動者や団体、アーティスト、そして専門性のある大学等との連携も積極的に進めながら、事業の継続とさらなる拡充を図っていきたい。

【総括】

【成果】

- ・様々なジャンルを横断的に体験し、子どもたちの可能性や創造性を感じることができた。
- ・鑑賞するには学芸員から、子供向けの作品鑑賞の説明があり、実際に作品を鑑賞するには子供が興味を持てるようなクイズ、作品の見方の説明、製作の意図など説明が加えられ、美術品鑑賞のマナーと奥深さを知るきっかけとなった。
- ・幼児から子供までの年代に配慮し、半土間の客席にして、子供たちが伸び伸びと鑑賞できる環境を整えられていた。
- ・保護者も子供たちがぐずったりしても気兼ねなく鑑賞できる雰囲気づくりに努められていた。
- ・親子と一緒に伸び伸びと鑑賞できるステージが更に増えることが、文化芸術に触れる機会と新たなファンづくりに役立つと考える。
- ・それぞれの結びつきに配慮がなされ、多くの参加者たちが多方面のアートに触れられたことで、高い満足感が得られていた。
- ・2日目の「まるっと体験ツアー」は多くのアートをひとつの流れの中に収めた密度の高い企画であり、内容的にも充実度が高く評価できる。
- ・多くの方が関わることで、多彩なプログラムを県民に提供する魅力的な事業となった。

【課題】

- ・県立美術館とエースバック未来中心の離れたイベント会場をスタンプラリーでつないで一体感を出す工夫をしていたが、会場が離れることやその導線上に、何らかの誘導のしかけも必要ではなかったか。
- ・ボランティア学生によるサポートで参加者も楽しんでいただけに、ワークショップへの参加に期待感（ワクワク感）を抱せる演出が創造できないだろうかと欲が出てしまう。
- ・人気のあるプログラムは両日開催にするなど、参加できる人数を増やす工夫が来年度は必要。
- ・子ども連れは遠出が難しい場合もあるため、小規模開催のワークショップは県内巡回型に変更出来ると、参加率が高くなる可能性がある。
- ・各ワークショップ講師やコンサートを演奏するアーティストの事業に対する思いや意気込み、こだわりポイントなどの情報発信が SNS で有ると、企画内容の魅力が伝わりやすくなり来場者や参加者の増加につながるように思う。

【その他事業に関する意見、感想など】

- ・東京芸術大学のプログラムは高い芸術性と教育性を兼ね備えており、アートワークショップとデジタル技術の融合など質の高い多彩なアート体験で構成されていた。
- ・今後も、専門性のある大学等との連携を積極的に進め、事業の継続と深化を図っていただきたい。
- ・コンサートで流れたアニメーションがシュールだった、小さな子供には少し怖かったという意見があったが、同感だった。
- ・あえてくすんだ色使いで見せ切って面白く感じたが、映像のシュールさが気になって肝心の演奏が耳に入って来なかった。
- ・子ども達の作品がスクリーンに登場する演出は微笑ましく楽しめたが、自分の作品を探すことに子どもの意識が集中してしまう面もあるため、短時間でも良いので映像は消して、しっかり演奏だけを聴かせるシーンが設定されてあると嬉しか

った。

・コンサートで隣に座った男の子が、「芸術に触れさせたい」という母親の思いとは裏腹に、演奏に全く興味がない様子であった。母親がずっとなだめていたものの、諦めて途中で退出されて少し残念だった。保護者が演奏を楽しみたい場合もあり、会場に子ども一時預かり室を準備するなど、配慮があっても良かった。

第 23 回鳥取県総合芸術文化祭・とりアート 2025 展示事業

令和 7 年 11 月 28 日（金）～28 日（日）鳥取県立美術館 ほか

【文化芸術事業評価シート】

目的	自己評価			評価委員による評価
	取組目標	行動計画	達成度及び 評価理由	達成度及び評価理由
文化芸術に親しむ環境づくり	誰もが文化芸術に親しむことができるようにするための環境づくり	鳥取ゆかりの若手アーティストのほか、高校生、小学生の作品も展示し、幅広い表現に誰もが触れられる事業を目指す。	<p>達成度：概ね達成</p> <p>【成果】</p> <p>鳥取県出身・在住の大学生等をはじめ、高校生の作品を展示することで、若者の幅広い表現に触れられる内容とすることができた。また中部会場では、県内小学生から募集した絵画作品の展示も行い、様々な年代の若者たちの作品に触れられる機会となった。</p> <p>【課題】</p> <p>満足度が 77.7%（前年度 76.3%）前年度より 1.4%上昇したものの、目標の 80%に達しなかった。作品の少なさについての指摘が複数寄せられているが、会場規模や出品対象者となる層の割合等を踏まえながら検討していきたい。見ごたえのある展示内容を検討するなど、引き続き満足度の向上を図っていく。</p>	<p>達成度：概ね達成</p> <p>【成果】</p> <p>鳥取県出身・在住の大学生、高校生の作品は、見ごたえのあるものが多くあった。幅広いジャンルの作品が並び、来場者のアンケートにも若者の感性に称賛の声が多く寄せられた。</p> <p>中部会場では、小学生の絵画作品の展示もあり、幅広い作品に触れる機会となった。</p> <p>【課題】</p> <p>会場により、作品展示のボリューム感に大きな差があった。</p> <p>満足度を上げるには、やはり展示作品を増やす必要があると感じる。今年度は、昨年 11 月に本県で開催された近畿高等学校総合文化祭に出品した高校生の作品が多く展示できたが、今後はさらに高校の美術部や美術教育関係者とのネットワークが必要である。</p>
		東・中・西部で巡回展示を行うことで、県民の鑑賞機会を確保する。	<p>達成度：達成</p> <p>【成果】</p> <p>東・西・中部の 3ヶ所で巡回展を実施し、県民の鑑賞機会を確保することができた。また、県立美術館での開催および小学生の絵画作品を多数展示したことで、小学生の家族が多数来場したほか、館内の他の展示会場に訪れた方々の来場もあり、県外からの来場も全体の 1 割を占めた。集客数が目標に届かなかったが（目標 1,300 人→結</p>	<p>達成度：達成</p> <p>【成果】</p> <p>県内 3か所での巡回展示は、県民の鑑賞機会の確保につながった。</p> <p>東部会場は、とりぎん文化会館入口正面のイベントホールでコンパクトな展示だったこともあってか、他の催しでの来館者が気軽に立ち寄れる雰囲気であった。</p> <p>また、「Fun! Fun! Dance」（とりアートオリジナルじゃんし</p>

			<p>果 1,274 人)、達成率は 98% であり、当初の想定に見合った集客ができた。</p> <p>【課題】 西部会場は、駐車券処理が必要な会場、わざわざ訪れる機会が少ないなど、アクセス面で集客に苦戦した。普段、美術館に足を運ばない層にも鑑賞してもらいたいという思いから美術館ではなく不特定多数の人が訪れる公共施設を会場としたが、今後は他の大規模イベントの日と併せた日程設定など、戦略的な集客計画が必要。</p>	<p>やんダンス!) のリハーサル後にこの展示を見て帰るといいう流れが組まれていたことは良かった。</p> <p>中部会場の県立美術館は、家族連れの姿も見られた。また、県外から観光での来館者も多いので、来場者数の増にもつながった。</p>
	文化芸術活動者の発表や創造の機会の提供	<p>日頃から作品制作に取り組む学生、また児童生徒の作品を展示することで、出品者に発表機会を提供する。</p>	<p>達成度：概ね達成 【成果】 日頃から作品制作に取り組む学生や児童生徒の作品を展示したことで、出品者が自分の表現を発表できる機会を提供できた。今年開館した県立美術館での作品展示により、今後の創作活動への意欲向上にも寄与した。</p> <p>また、来場者からは、子ども達は展示の機会が与えられ、絵を大好きになれる良い企画だったという意見も寄せられた。</p> <p>【課題】 学生の出品にあたっては、学校の課題が集中する時期などを踏まえ、応募しやすい条件を整える必要がある。今後は、出品者や学校との情報交換を進めながら、参加しやすい環境づくりに取り組み、より多くの学生が出品できるよう努めていきたい。</p>	<p>達成度：概ね達成 【成果】 芸術を志す若者に公共の展示会場での発表の機会を提供することは、大きな励みになる。また、児童にとっては、県美での展示は絵を描くことへの興味を持たせるのに良い企画であった。同じ会場で高校生たちの作品にも触れることで、さらに絵画への関心を高める児童も増えると思う。</p> <p>【課題】 出品を促すためには、応募してもらいやすい時期設定などが重要になる。高校の美術部や美術教育関係者との情報交換をしながら、応募しやすい環境づくりをすることが大切で、そのためにもこの事業が定着し、認知される必要がある。</p>
		<p>【前年度の課題】 広報、集客はどの企画も課題ではあるが、ターゲット層の絞り込みなど、事前の計画やすり合わせが必要。県内のみならず、県外へのイベントを周知し、集客につなげることができればなおよい。</p>		
文化芸術が育む・文化芸術を育む人づくり	若い世代による企画・運営への参加促進や人材育成	<p>県内美術関係者、高校美術部のネットワークとも協力し、現在、大学等で作品制作に励む学生に参加を呼び掛けることで出展を促す。</p>	<p>達成度：概ね達成 【成果】 県内美術関係者や高校美術部のネットワークを活用し、大学等で制作する学生への参加呼び掛けを行った結果、昨年度は出品を見送った学生が今回は出品するなど、一定の成果が得られた。昨年度の開催</p>	<p>達成度：概ね達成 【成果】 昨年度出品を見送った学生が今回出品したことは、一定の成果が得られた。この事業を継続することにより、学生たちへの認知度を上げ、出品意欲が高まることを期待する。</p>

		<p>実績により事業の認知度が高まり、学生の関心喚起と参加基盤づくりが進んだといえる。</p> <p>【課題】 大学生・専門学校生からの応募は一定数あったものの、当初想定していたほどには集まらず、更なる働きかけが必要であると感じられる結果となった。要因としては、大学との連携不足や学生の制作状況等のリサーチが十分でなかった点が挙げられる。 今後は、各大学との連携強化や情報収集の工夫を図ることで、更なる充実を図る。</p>	<p>【課題】 若手作家の掘り起こしや、芸術分野に進学した学生の情報を得ることが必要である。高校の美術部や美術教育関係者との綿密な情報交換が必要である。</p>
	<p>近畿高文祭との連携による高校生作品の展示、また小学生の絵画作品展示を併せて行うことで、若い世代の活動参加への道筋をつくるとともに、出品数の充実を図る。</p>	<p>達成度：概ね達成</p> <p>【成果】 高文祭との連携により高校生作品の展示を行い、さらに小学生の絵画作品も併せて紹介したことで、若い世代が活動に関わるきっかけづくりにつながった。来場者からも幅広い年代の作品を楽しめたとの声があり、展示内容に対する関心の高まりが見られた。 また、出品数の面でも大学生・高校生含め 44 点（昨年度は大学生のみ 29 点）と、昨年度から内容の充実を図ることができた。</p> <p>【課題】 高文祭終了後の来年度以降、高校生へ出品を促すための美術教員とのさらなる連携が必要。また、小学生からの作品応募は中部エリアに集中し、東部・西部からの参加が少なかった。募集時期が遅くなったことも影響し、十分に作品を集め切れなかった面があると考えている。 来年度はより早い時期から準備を進めるとともに、学校への協力も仰ぐことでより多くの児童が参加しやすい環境づくりにつなげていきたい。</p>	<p>達成度：概ね達成</p> <p>【成果】 近畿高文祭との連携による高校生の作品展示により、展示内容の充実が図られた。高校生の作品も見ごたえがあり、高文祭とは異なる幅広い観客層に見てもらえる良い機会となった。</p> <p>【課題】 来年度以降も高校生への出品を促すことが必要と考える。今回、小学生の作品展示は県立美術館のみだったので、中部地区の学校からの応募が大半を占めていた。それぞれの巡回地域ごとで作品応募するなど検討してほしい。</p>
<p>【前年度の課題】 アンケートの顧客満足度があと一步であった。出品数の目標を増やして、来場者が物足りなさを感じるこ</p>			

を解消し、満足度の高いイベントに成長することを期待したい。				
文化芸術 による元 気な地域 づくり	地域におけ る文化芸術 の活性化	<p>鳥取ゆかりの若手アーティストや将来的なアーティストが期待される高校生、そして総学生の作品が一堂に会し、多くの県民が集う場とする。</p>	<p>達成度：概ね達成 【成果】 鳥取ゆかりの若手アーティストをはじめ、将来が期待される高校生や小学生の作品が一堂に並んだことで、幅広い年代の表現に触れられる場となった。来場者からも「さまざまな世代の作品をまとめて見られて良かった」という声が聞かれるなど、多くの県民が楽しめる展示となった。世代の異なる作品がそろったことで会場の雰囲気も明るくなり、アートへの関心を高める効果があった。また、会場内にふせんアートコーナーを設置したことで、来場者が気軽に参加できる交流の場が生まれた。子どもから大人まで多くの方が作品や感想を自由に書き込んで貼り付け、会場全体ににぎわいが生まれた。</p> <p>【課題】 来場者からは出品者の話を聞きたいという声も寄せられており、今後は、小規模なトーク企画やワークショップなど、無理のない範囲で交流の場を設けられるよう検討を進めたい。また、来場者からは、こうした展示は地元のデザイン会社への人材紹介にも利点があるため、継続してほしいとの声も寄せられた。今後は広報先として県内のデザイン会社等への周知も強化し、県民のみならず地元企業からも若い世代の活動に関心を持ってもらえるよう取り組んでいきたい。これにより、地域における創作活動の理解促進や、将来的な人材育成・交流の場としての機能拡充にもつなげていく。</p>	<p>達成度：概ね達成 【成果】 ジャンルが多種であり、来場者からは満足の声が多くあった。若い年齢層の来場者も多く、幅広い年代の県民が集う場となった。中部会場でのふせんアートコーナー設置などのアイデアはよかった。高校生の書道の展示に、作品に込めた思いと一緒に記されていたのが、とても分かりやすく、思いが伝わりよかった。</p> <p>【課題】 アンケートでも出品者の話を聞きたいという声が寄せられているので、都合がつく範囲で、トーク企画等ができるとうよい。また、今後地元のデザイン会社への人材紹介にもつながっていくと、学生もより前向きになれる。前年度の課題であった「ふるさと鳥取」を基軸とした共通の場やインターネット媒体等は、まだ実現に至っていないので今後も課題として検討していただきたい。</p>
		<p>【前年度の課題】 県内在住者や将来的なアーティストたちの日頃の活動を発信できるような「ふるさと鳥取」を基軸とした共通の場やインターネット媒体等があることが望ましい。</p>		
達成度集計		(13/18) ≒ 72%	(13/18) ≒ 72%	

【定量目標・実績】

	目標	実績	(参考) 昨年度実績
④ アンケート回収率 (%)	60%	56.8%	43.1%
⑤ 観客満足度 (%)	80%	77.7%	76.3%
⑥ 入場者数 (名)	1,300 人	1,274 人	978 人

【自己評価総括】

【成果】

本事業は2回目の開催となり、昨年度からの来場者からは「昨年より出品数が増えている」など、内容の充実を評価する声が寄せられるなど、前年からの改善が見られた。また、会場に設置したふせんアートでは「美大生として私も頑張る」「美大進学をめざします」といった前向きなメッセージも多く集まり、同世代への良い刺激となるとともに、将来の出品者につながる意欲の高まりが確認できた点は大きな成果である。

【課題】

昨年度と比べて出品数は増加したものの、依然として少ないとの意見も寄せられた。今後は、対象を学生だけでなく高校生や大学等の卒業後の方にも広げるなど募集の間口を広げることや、応募しやすい時期での開催を検討するなど、課題を改めて整理し、出品数のさらなる充実を図っていききたい。また、とりアートの他事業と一体的に行う方法も検討し、とりアート全体の発信力を高められる事業運営を目指す。

【その他事業に関する意見、感想など】

2年目の実施となった本事業では、昨年度から継続して来場された方に加え、初めて訪れた方からも、若い世代の作品に対する驚きや感動の声が寄せられた。こうした声を大切にしつつ、今後も事業を継続的に展開することで、より多様なアート作品に触れ、また参加できる取組みを進めていきたい。あわせて、若い世代が自身の作品を発表する機会や、創作活動を広く発信できる場を確保するとともに、県民がより身近にアートに触れられる機会を広げることで、地域文化の一層の充実にも寄与する事業として発展させていきたい。

【総括】

【成果】

- ・昨年度よりも出品数が増え、ジャンルも多岐にわたり、好評の声が多くあった。
- ・芸術を志す若者に公共の展示施設で発表の機会を提供することは、創作活動に大きな励みとなる。
- ・高校生は、若手アーティストとともに作品が展示されることで、大きな刺激を受けることができた。
- ・ジャンルの世界観に合わせた作品ラベルや空間整理で会場全体の統一感があった。さらに、ふせんアートコーナーの設置などもあり、会場の展示方法がレベルアップしていた。
- ・アンケートの鑑賞理由として、「偶然通りかかった」という人の割合が多かったことは、展示会場が会館の入り口近くで、入りやすい雰囲気もあり、来館のついでに気軽に立ち寄れたのだと思う。
- ・作品が少ないとの指摘もあったが、反対にじっくりと鑑賞できてよかったという意見もあった。

【課題】

- ・若手作家の掘り起こしや、芸術分野に進学した学生の情報を得ることが必要であるが、個人情報に関することもあり、中々困難と思われる。高校の美術部や美術教育関係者との情報交換が必要である。
- ・人気投票では、部門が異なる中では難しいとの意見があった。部門ごとの人気投票が望まれるが、そのためにも、出品数を増やす必要があり、さらなる広報に力を入れていきたい。

【その他事業に関する意見、感想など】

- ・「未来をえがこう！絵画作品展」では、「海」「花火」といった共通テーマに、様々な表現方法がみられて興味深かった。

- ・小・中・高・大学生・専門学校生が「同じテーマの作品を描く」などのメイン企画があれば、年齢ごとの違いを楽しむことができ、事業の一体感がさらに生まれるように感じた。
- ・様々なジャンルの展示をひとつにまとめる核となる企画が欲しい。
- ・県立美術館で同時に催された、小学生への応募企画「未来をえがこう！絵画作品展」は、応募作品すべてを展示するという形で募集されたので今回はやむを得ないが、同一会場に展示するのであれば、選考された作品の展示が良いと思う。
- ・ジュニア県展との連携は図れないか。
- ・中学校へも働きかけをしてはどうか。
- ・運営サイドはどんどんハードルが上がってしまうが、無理のないよう調整して継続を望む。

【文化芸術事業評価シート】

目的	自己評価			評価委員による評価
	取組目標	行動計画	達成度及び 評価理由	達成度及び評価理由
文化芸術に親しむ環境づくり	誰もが文化芸術に親しむことができるようにするための環境づくり	<p>新たな来場者が増えるよう、県内 4 会場の巡回展示について、幅広い世代に向けて積極的な広報を実施する。特に県展への来場が少ない 30 代以下の県民に対しては、アート作品の創作や鑑賞に対する興味・関心を引き出せるよう、SNS 等の媒体を用いる。</p> <p>【目標値】 〈初めて来場したと回答した人数〉 1,800 人 (第 68 回実績 : 1,501 人)</p>	<p>達成度 : 達成 【成果】 アンケートで初めて来場したと回答した人数は 2,610 人となり、目標値を大きく上回った。うち半数を占める 1,325 人は倉吉会場に来場した。また、全会場の初来場者のうち 30 代以下は 714 人となり、昨年度より 2 倍近く増加した(第 68 回実績 : 378 人)。特に SNS やホームページを見たという回答が多く、若い世代への積極的な広報が来場につながった。</p>	<p>達成度 : 達成 【成果】 目標値を大きく上回ることができた。倉吉会場での新規来場者が多かったことや、SNS やホームページを見て来場したという回答が多かったことは、鳥取県立美術館の誕生およびその活用が成功した結果と考えられる。町内老人会や旅行のツアーの一環として来場された方々もおり、来年からの取り組みに期待したい。なお、他会場でも対前年比をもとに、個々の会場の目標と対策が必要である。</p>
		<p>あなたが好きな作品賞投票について、投票できる部門を最大 3 部門から 4 部門に増やす。受付で投票を促す声掛けとともに、出品目録と投票用紙をセットで配布することで、来場者が作品の良い点、好きな点などを考えながら楽しく主体的に鑑賞してもらう機会とする。</p> <p>【目標値】 〈あなたが好きな作品賞投票率〉 58% (第 68 回実績 : 56.2%)</p>	<p>達成度 : 概ね達成 【成果】 投票を行った 3 会場の投票率は 50.8% となり、目標値には達しなかったが、鳥取・米子会場はともに昨年度より投票率が上昇した。4 部門が増えて投票の幅が広がったことで、有効投票総数は昨年度より 1,935 票増加し、9,303 票となった。</p> <p>【課題】 投票にあたって、特に倉吉会場で「部門の区切りが分かりにくい」「番号が見えづらい」といった声があったため、キャプションの表示等に工夫が必要である。</p>	<p>達成度 : 概ね達成 【成果】 投票率から投票に楽しみを感じている来場者が一定数いると考えられ、有効な手法といえる。米子会場でも、目録に印をつけたり撮影可能な作品を撮影したりしながら鑑賞している来場者が一定数いた。</p> <p>【課題】 アンケートにもあるように作品キャプションの番号が見えにくいことに加え、出品目録の番号と展示順が同じではないため、番号を見つけ難いという問題がある。投票にストレスを感じさせないための工夫が求められる。また、投票した作品の結果や授賞式がいつあるのかが分かりづらかったため、告知方法を工夫するなどして、後日、投票者が知ることができればより参加意識が生まれるのではないだろうか。</p>

	<p>【前年度の課題】 作品賞投票は、鑑賞者にとって参加型であり、自分たちも関わっているという面白さがあるため、今後も続けていきたい取組。投票対象をいくつ選ぶのかということや投票の仕方の記述に、鑑賞者等に疑問や意見があるのであれば、前年度の課題も含めて検討していただきたい。</p>		
<p>文化芸術が育む・文化芸術を育む人づくり</p>	<p>県立美術館の開館により、芸術への関心の高まりとともに、美術館が身近に感じられる場所となってきた。県立美術館で県展が開幕することをアピールし、特に10代以下の来場者数が少ない倉吉会場で子どもたちが気軽に足を運んでもらえるよう、ギャラリートークなどのイベントを実施する。</p> <p>【目標値】 <倉吉会場の10代以下の入場者数> 80人 (第68回実績：39人)</p>	<p>達成度：達成 【成果】 県立美術館での開幕を、新聞、SNS、YouTube 広告を用いて広報を実施するとともに、チラシ・ポスターにも大きく表示した。県立美術館の注目度も効果的に作用し、10代以下の入場者数は405人と目標値を大きく上回った。アンケートに回答した116名のうち半数近い55名が広告物を見たと回答しており、子どもたちの目にも留まったことが来場者の増加に寄与したと見受けられる。</p>	<p>達成度：達成 【成果】 10代以下の来場者数が目標値の約5倍、そして昨年度の約10倍に増加したことは、驚異的な結果である。従来のチラシやポスターが重要なのはもちろんだが、SNSやYouTube 広告も、時代や年代に合った広報であることが改めて分かった。ただし、県展賞受賞者の高校でも「県展」の存在が知られていない実態があり、部活動や関連の機関だけでなく、広く教育の現場での「県展」を周知されたい。そのためには、学校や家庭での情報提供が重要である。</p>
	<p>子どもたちがアートを鑑賞、体験、実践する機会の充実</p>	<p>創作的意欲のある県内の若年層に対して、県展へ出品してもらえるよう、学校等を通じて働きかける。また、ジュニア県展とあなたが好きな作品賞の表彰式を合同で開催し、県内の優れた作家たちの作品を紹介することで、次のステップとして県展への出品を意識してもらう。(R1から継続実施)</p> <p>【目標値】 <学生・18歳以下の出品数> 55点 (第68回実績：46点)</p>	<p>達成度：一部達成 【成果】 県内大学の美術部へ出品を働きかけたり、県内学生が進学した県外の美術系学校や学生寮へ県展の広報を行ったりすることで若年層にアプローチした。結果として学生・18歳以下の出品数42点となり、目標値には達しなかったが、洋画・写真部門の出品数が増加したほか、昨年度は応募が無かった彫刻部門で出品があった。</p> <p>【課題】 学生等の出品数は年によってばらつきがあり、近年は30～50点を推移している。出品数が大きく落ち込むことがないよう、今後もジュニア県展との連携や若年層への働きかけを継続していく必要がある。</p>
<p>【前年度の課題】 10代の鑑賞率を高めるために市町の教育委員会への働きかけが重要と考える。特に、県立美術館が開館する倉吉では、学校行事・授業などで取り入れることを検討すべきではないか。10代の鑑賞者が増えても、どの年代も増えていけば、全体の中での割合は変わらない。目標設定の検討が必要ではないか。 学生等の出品者の多くは学校で取りまとめて出品しているならば、早めに周知して作品の制作に繋がるよう</p>			

	にすべき。触れるアート、ワークショップ型コーナーの併設もあれば、子ども達の来場も増えるかもしれない。		
文化芸術による元気な地域づくり	該当なし		
【前年度の課題】			
達成度集計		(9/12) ≒ 75%	(9/12) ≒ 75%

【定量目標・実績】

	目標	実績	(参考) 昨年度実績
⑦ アンケート回収率 (%)	58%	51.1%	55.8%
⑧ 観客満足度 (%)	90%	84.9%	86.5%
⑨ 入場者数 (名)	8,300 人	10,715 人	7,873 人

【自己評価総括】

【成果】

- ・本年度の全出品数は541点（一般：423点、無鑑査：118点）となり、前年度より7点減少したが、洋画部門が101点（一般：82点、無鑑査：19点）と大きく増加し、5年ぶりに一般応募作品が80点を超えた。
- ・初出品の受賞者は5名（県展賞2名、奨励賞3名）となり、昨年度より1名増加した。県展賞ではデザイン部門で学生、彫刻部門で10代の初出品者が受賞した。一方、奨励賞では洋画、工芸部門で70代以上の初出品者が受賞しており、幅広い世代の才能発掘につながった。また、初出品で入選以上となった作品は45点で、うち20代以下の割合が73.3%であった。県立美術館での県展開催が、特に若い世代の新たな出品者の獲得につながったと見られる。
- ・定量目標③の入場者数は目標を達成した。倉吉会場（県立美術館）の来場者数は4,802人となり、昨年度の開幕会場（県立博物館）より1,120人増加した。また、日南会場は会期中に周辺で地元のお祭り（にちなんふる里まつり）が開催された相乗効果により、昨年度から474人増えて1,159人となった。そのほか鳥取・米子会場でもそれぞれ2,000人を超える来場者があり、4会場（会期34日間）の合計は10,715人で、6年ぶりに1万人を突破した。（R1来場者数：10,015人（会期44日間））

【課題】

- ・定量目標①アンケート回収率は目標を達成できなかった。
会場別に見ると、倉吉会場が44.3%と最も低くなった。会場が1階の県民ギャラリーと3階の企画展示室に分かれていたが、1階では展示スペース確保のためアンケート記入台を設けられなかった。3階から1階の順で観た方が、アンケート記入で困ることがないように次回から改善する必要がある。
また、今回からアンケート用紙にとっとり電子申請サービスのリンクを載せて、オンラインでも回答できるよう対応した。利用数は4件と微々たるものではあったが、今後もアンケート回答のハードルが低くなる取り組みを継続していきたい。
- ・定量目標②観客満足度は目標を達成できなかった。会場別の数値は以下のとおり。
▽鳥取会場…78.8%
昨年度より7.4%下落し、鳥取会場が最も低くなった。県立博物館の展示室の都合上、今回から前期・後期展での開催となったことが主な要因と見られ、一度にすべての作品を鑑賞できなくなったことに対して不満の声が寄せられた。ただ、「いつもよりゆったりと展示されていて、作品をじっくり鑑賞できてよかった」という声もあったため、展示スペースと展示点数のバランスや会場に合った展示方法を今後に向けて検討していきたい。
▽倉吉会場…86.0%
県立美術館で初開催となり、展示数が増えた洋画・写真部門でかなり間隔が窮屈となったことで、「タイ

トルキャプションの位置が悪く見づらい」「ゆっくりと鑑賞できなかった」といった意見が寄せられた。一方で、「昨年度までは前期・後期展だったので、今年は県立美術館で全作品を見られるようになって嬉しい」という声もあり、観客満足度は昨年度より3.7%上昇という結果となった。展示パネルの位置や部門レイアウトを見直し、より良い展示となるよう改善していきたい。

▽米子会場…87.1%

▽日南会場…88.7%

【その他事業に関する意見、感想など】

- ・審査会の見学者が年々減少しており、今年0人となった部門もあった。公正な審査を行うためにも、県民への公開審査の周知や申込方法について、改善できる部分がないか検討したい。
- ・人件費や物価の高騰により委託業務の経費が肥大化しているほか、長期間の事業による作業員の人手不足の問題が顕在化してきている。県展を持続可能な事業とするために、委託業務内容の見直し、関連イベントの効率的な実施、デジタル媒体の活用など、関係者から意見を頂きながら実施・運営方法について検討していきたい。

【総括】

【成果】

- ・初めて来場した人数や倉吉会場の来場者、10代以下の来場者が増加したことが今年度の特筆すべき点であり、鳥取県立美術館の開館にともなう機運の高まりや、それを逃さず本事業につながられたことが感じられた。
- ・10代以下の来場者や出品数の増加はどの分野でも課題となることが多いが、少子化が加速する中でどちらも一定の人数を集められたことも、本事業の成果としてあげられる。
- ・作品のレベルが高く、美術展としての内容が充実していた。

【課題】

- ・鳥取会場の満足度だけが80%を下回っている。前期・後期に分けてゆったり鑑賞するスタイルに慣れている来場者と、一度にすべての作品を鑑賞したい来場者に分かれることは仕方のないことではあるため、今回の結果だけで判断するよりも、隔年で両方の展示方法を取って来場者の反応をみてもよいかもしれない。
- ・会場による入場者数アップの対策、県展への参加者募集の工夫が必要。

【その他事業に関する意見、感想など】

- ・今回はじめてギャラリートークに参加することができたが、各部門15分ずつなのが良いと感じた。
- ・内容はどの部門も興味深く、とても面白かった一方で、話が途中で終わってしまった審査員もおり、駆け足のような印象を受けた。午前ですべて終わらせるには仕方のない時間配分だったと思うが、20分でも良いように感じた。
- ・日本画・版画・彫刻・工芸・写真・デザインの6部門はそれぞれ4名という偶数であった。なぜ審査員数を奇数にしないのか疑問である。
- ・作品名も出品者にとっては作品の一部とも言える大切なものである。担当の県職員の方が読み上げられる時間のロスなどを考慮すると、PCで表示したり、手間がかかるのなら作品受付の時に大きめの紙に出品者自身で書いてもらったりしてはどうだろうか？
- ・審査の時も場所によっては照明が暗いと感じた。アンケートにもあったが作品の展示時も場所によっては照明の暗さがあり、作品の良さを半減させてしまう場合もある。県立美術館という、初めての場所での審査だったこともあるかも知れないが、今後ご検討いただきたい。
- ・今までの審査会場であった鳥取県立博物館では、工芸など壊れやすい作品も審査会場そのまま展示することが可能であったが、今回の県立美術館では1階で審査して、展示は2階ともう一度梱包し直さなければ展示会場まで運べないという事態を目の当たりにした。今後、審査会場が県立美術館であれば作品に対する破損などのリスクや梱包し直しや再びの開封などの手間を考慮することも必要かと感じた。
- ・版画・書道などの部門の作品の多くは、落款や名前の明記がされていて作者がわかるようになっていたが、それも含めて作品だと言われていた。この事は平等な立場で審査をされる際に名前などを伏せている他の部門との差はないのだろうか少し疑問に感じた。
- ・展示の位置が大人が観覧するには低すぎる位置の作品や、反対に子どもたちが観覧するには高すぎる位置の

作品もあった。想定する観覧者の目線から少し上とかの設定を、展示の際には全体で共有されてはいかげんか。

- 工芸などは、それが使用されるであろう高さがあるかと思うので、展示の高さも考慮されればより作品の良さや魅力が伝わるのではないかと感じた。
- 会場の作品についてのワンポイントの解説があればより親しめる。

第23回鳥取県ジュニア美術展覧会

令和7年11月28日（金）～令和8年1月18日（日）鳥取県立美術館ほか

目的	自己評価			評価委員による評価
	取組目標	行動計画	達成度及び 評価理由	達成度及び評価理由
文化芸術に親しむ環境づくり	誰もが文化芸術に親しむことができるようにするための環境づくり	<p>今年度から県立美術館ですべての入賞・入選作品を展示することから、開催要項、ポスター等にその旨を記載し、昨年以上の出品数につなげる。</p>	<p>達成度：概ね達成</p> <p>【成果】 開催要項、ポスター、SNSをはじめとした広報に県立美術館でのすべての入賞・入選作品の展示について記載し、広く周知した。</p> <p>【課題】 昨年と比較して出品数は減少したが写真部門では小学校、中学校ともに出品数が増加したことから、出品の傾向を分析し、次年度の出品につながるよう工夫していきたい。また、部門ごとに各地区で出品数の偏りがあるため、地区ごとに出品数の少ない部門について団体への周知等、働きかけが必要と考える。</p>	<p>達成度：一部達成</p> <p>【成果】 県立美術館での開催による関心の高まりと全入賞・入選作品の展示を行ったことにより出品数、入場者数に一定の成果が見られた。</p> <p>一方で、計画の目標とした昨年以上の出品数には至っていない。</p> <p>【課題】 ポスターには、中部の展示方法について「本展示」と記載されるにとどまり、意図が汲み取りにくい。</p> <p>「中部会場では、入賞、入選作品のすべてを鑑賞いただけます」といった直接的な表現が伝わりやすいと考える。</p> <p>同時に、展示数の数に対して会場のキャパシティとして窮屈に感じられ、学年の区分の表示とあわせ、ゆったりとしたわかりやすい展示に模索の余地がある。</p> <p>なお、自己評価における課題のとおり、継続的な広報・周知を期待したい。</p>
		<p>上位入賞作品の画像及び講評の文化政策課ウェブサイトへの掲載を継続して実施する。SNSや会場で二次元コードを表示し、広く子どもたちの優れた作品を鑑賞いただけるよう、ウェブサイトの周知を強化する。</p>	<p>達成度：一部達成</p> <p>【成果】 今年度も上位入賞作品の画像および講評をウェブサイトに掲載した。</p> <p>【課題】 SNSでは展覧会の広報のみとなってしまう、ウェブサイトにも画像が掲載してあることを周知できなかった。</p> <p>会場に表示していた二次元コードからも作品の画像を掲載したページにはたどり着けるようにはなっていたが主に出品目録を見ていただくため</p>	<p>達成度：一部達成</p> <p>【成果】 ウェブサイトに入賞作が掲載され、来場を果たせなかった方、もう一度振り返りたい方に鑑賞して頂くとともに、来年度出品への参考ともなる。</p> <p>【課題】 自己評価にあるように、ウェブサイトへの掲載の広報は会場での広報以外に、募集及び展覧会開催のチラシ等にも掲載が望まれる。</p> <p>また、ウェブページの構成を見ると、入賞者目録（一覧）</p>

			<p>の案内になっていたためウェブサイトでの鑑賞には十分に繋げられなかった。アンケート用紙にウェブサイトでも上位入賞作品を鑑賞できることを追記する等、周知を工夫したい。</p>	<p>の右に作品へのリンクの貼り付けが望ましい。 なお、ページ全体が行政的すぎはしないか、外部サイトの業者委託も一考の価値はある。</p>
<p>【前年度の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 初めてのウェブサイト掲載であり、このような取組みを行っていることの周知が十分でなかった。チラシ・ポスターに上位作品をウェブサイトで見ることができると案内をわかりやすく明示するほか、入口付近の通常は作品リストを置いてあるところに案内を表示したり、東部会場で行われていたように口頭での説明をするなど周知方法に一層の工夫が必要。 閲覧までが不便である。可能であれば、検索した時に一旦県のサイトへ行き、そこからジュニア県展を探すのではなく、例えば「デジタルジュニア県展」といったネーミングの特設サイトをつくり二次元コードをポスター・チラシに掲載してサイトに直接行けるようにするなどの工夫が必要。 				
文化芸術が育む・文化芸術を育む人づくり	子どもたちがアートを鑑賞、体験、実践する機会の充実	<p>昨年リニューアルした広報物(募集要項、展覧会チラシ、ポスター)のデザインを継続しつつ、明るく目を引く配色とし、子どもたちが出品や展覧会の鑑賞に関心を持てるものにする。関連企画、作品募集、展覧会開催案内についてSNSでの投稿数を増やすことでSNSのフォロワー数の増加につなげる。</p>	<p>達成度：達成 【成果】 広報物のデザインは継続しながら、今年度は明るい暖色の配色とした。開催要項、ポスターともに目を引くものになった。 SNSの投稿については、関連企画の募集から展覧会終了までにX、Instagram合わせて16件投稿した。(昨年度9件)会期が始まってから、新規のフォロワーも獲得した。</p>	<p>達成度：達成 【成果】 ポスター等のデザインは柔らかく、好感が持てる仕上がりが見られた。 SNS投稿にも効果がうかがえる。</p>
		<p>関連企画として開催している子ども写真・絵画教室のチラシについてもこれらの広報物と統一感のあるデザインを目指し、ジュニア県展を前に子どもたちが作品制作に取り組む機会を設ける。 作品の募集にあたっては、学校以外にも昨年出品があった絵画教室や書写教室等の団体を中心に開催要項を送付し、日頃、教室で制作活動に励む子どもたちのチャレンジや成果の発表を行う場所としてもらう。</p>	<p>達成度：概ね達成 【成果】 関連企画のチラシについて、開催要項やポスターと同系統の色味としたことで統一感を出すことができ、ジュニア県展の関連企画であることがより分かる形で写真・絵画教室の希望者を募ることができた。絵画教室には定員(25名)を上回る応募があった。(写真教室は応募者数15名/定員20名) 作品募集の案内として、開催要項を過去2年の間に出品のあった団体を中心に送付した。特に書写部門は昨年と比べ、出品団体が5団体増加(今年度27団体、昨年度22団体)し、子どもたちの成果発表の場になったものとする。 【課題】 絵画・デザイン部門について</p>	<p>達成度：概ね達成 【成果】 各種教室開催のチラシは、ジュニア県展との関連を示す統一感があり、各種教室の開催は県展を頂とする取り組みとして出品応募に効果があったものと考えられる。 【課題】 課題となるのは、部門ごとの地域の偏りではないかと思料される。 出品団体が増加したことは喜ばしく、募集活動の大きな成果ととらえられるが、小中学校の美術・芸術への取り組みの差、部門ごとの教室等団体数の偏りなどを分析した上で、効果的に作品出品へ誘うための活動を検討していきたい。 また、以前出品のあった団体からの出品がなぜ途絶えた</p>

			は団体での出品が減少した。 (今年度2団体、昨年度9団体)学校での取りまとめが縮小している中、興味関心をもった子どもたちが出品できるよう以前出品のあった団体へ案内を継続することで今後の出品につなげたい。	のかは重要なヒントとなると 言えよう。
【前年度の課題】 ・「SNSのフォロワーが少ない」という課題があり、フォロワーの増加に向けて工夫する必要がある。				
文化芸術 による元 気な地域 づくり	該当なし			
【前年度の課題】 ・				
達成度集計			(8 / 12) ≙ 66%	(7 / 12) ≙ 58%

【定量目標・実績】

	目標	実績	(参考) 昨年度実績
⑩ アンケート回収率 (%)	50.0%	42.4%	48.8%
⑪ 観客満足度 (%)	98.0%	98.7%	98.3%
⑫ 入場者数 (名)	5,200 人	5,423 人	5,178 人

【自己評価総括】

【成果】

・定量目標②観客満足度は、98.7%で、目標の98%を上回った。
今年度は県立美術館で全ての入賞・入選作品を展示したこともあり、「全ての作品が見られてよかった」という感想が多数見られた。満足度は3会場ともに高い水準であり、どの会場でも多くの方に満足いただける展覧会となった。

・定量目標③入場者数は、5,423人で、目標の5,200人を上回った。
中部本展示として全入賞・入選作品を展示した県立美術館の来場者数は2,171人と中部会場としては昨年度の3倍以上の来場者があった。また、全体で「初めて来場した人」の割合が50.6%とリピーターだけでなく新たな来場者を獲得できたことも成果だった。来場のきっかけも会場への立ち寄りと回答した方が13.5%と昨年の7%から6.5ポイント上昇し、県立美術館では他の2会場より割合が少し高かったことから、開館したばかりの県立美術館での展示が新たな来場者獲得に少なからず寄与したと考えられる。

【課題】

・定量目標①アンケート回収率42.4%で目標の50%を下回った。
県立美術館では、展示スペースの都合によりアンケート記入台を会場奥に設置したが、出入り口付近に設置してほしかったという意見があった。東部会場では2か所アンケート記入台を設置していたが、3会場の中で回収率が一番低くなった。家族連れで来場された場合、アンケート用紙を保護者のみに配布するケースも多いため電子申請サービスも活用していただき、一人一人にアンケートに回答してもらえるよう周知等を行う必要がある。

・出品目録は紙のものも用意し、二次元コードとともにその旨を会場に掲示し案内していたが、昨年同様アンケートに紙の目録が欲しいという意見があったため、来年度以降よりわかりやすく会場で案内したい。

【その他事業に関する意見、感想など】

・学校を通じての出品が縮小傾向にあり、出品数は減少しているが、アンケートにも年々レベルが上がっている

るというような質の向上を評価する意見があり、出品数だけでなく子どもたちがのびのびと自由に自己表現できる場を提供するという観点も重視していきたい。

・県立美術館での全入賞・入選作品の展示については、全ての作品が見られてよかったという意見が多く寄せられた一方、導線が狭い、もう少し展示にゆとりが欲しいといった意見もあった。県立美術館での展示が初めてだったということもあるため、よりよい展示となるよう引き続き検討していきたい。

【総括】

【成果】

- ・ジュニア県展の来場者満足度は、アンケートからも視察した結果からも感じられ、関係者の努力のたまものと評価できる。
- ・アンケート回収率は十分高く、ジュニア県展の充実度を判断する上で一つの指標として捉えられる面もある（即ち感動があればアンケート回収率も上がる）ので、引き続き目標とされたい。
- ・入場者の増加がみられ、相対的にはジュニア県展の認知度の向上が伺える。

【課題】

- ・出品数については、生徒数の減少率（▲2.11%、特別支援学校を除く）以上の減少率（▲3.94%）となっている。
- ・学校単位での応募が減少していることに鑑み、団体等への働きかけの強化が望まれる。多様化する部活動や部員の偏り等の現状を勘案すると、今後は応募数ではなく、応募率なる指標を見ることも必要と考える。
- ・情報が氾濫し且つ多様化する中、限られた活動の中でジュニア県展の情報を周知するための効果的な手法については、常に進化させていかざるを得ないと考えられる。SNSへの情報発信については継続した強化が必要ではあるが、何を伝えるか、コンテンツの精査も重要である。
- ・一方で、いわばアナログ的なチラシによる広報も確実な誘導手段として期待され、例えばファンクラブのような支援者の手による一般の方々（出品関係者以外の方々）への配布、また、世代を超えて幼稚園・保育園、養老施設入所者などの招待なども取り組みのひとつにならないだろうか。
- ・主催者も認知されているとおり、部門ごと、地域ごとの出品数の偏りはとても気になる課題であり、各部門での出品に至るプロセスの分析を行い、出品に繋がるように関係者へ繰り返しフォローすることも検討された。
- ・ポスター等のチラシについては、ジュニア県展関係者以外のいわゆる「外の人」にも意見を求めてはどうだろうか。今回に当てはめると、例えば開催要領等を知らない人にとって、その表現が開催者の意図を的確に表現しているのか、とても参考になると思われる。

【その他事業に関する意見、感想など】

- ・開催期間中に他のイベントも多く開催される中で、入場者数の確保は難しい課題であるが、今回見られた県立美術館効果のように、コラボ的な要素の取り込みに期待が高まる。
- ・併せて、県立美術館の展示は県民ギャラリーでの開催となったが、入賞・入選全作品を扱うにはやや手狭な印象があり、展示室の使用も視野に入れて検討をお願いしたい。
- ・出品作品の評価については、審査員の方々の苦勞が偲ばれるところである。審査員の方々の率直な総評、今後への期待する点などもお聞きしたい。
- ・展示作品を見せていただいたが、年齢を飛び越えた構図や配色を感じる作品が散見られ、急速に発達し身近なツールとなったAIの存在を意識せざるを得なかった。作品を評価する立場にはないが、どこまで許容するのか、新しい流れとして受け入れていくべきものなのか、悩ましさを感じた。
- ・「県展」を名乗る以上、夏休み宿題展示のような催しとの区別感が必要なのではないかと一考するに、いたずらにハードルを上げず親しみやすさを維持していくのであれば、現状の開催・展示の方法を継承しつつ、ジュニア県展作品集などの刊行などにより「憧れ」や「達成感」を刺激する演出できないだろうか。

第 49 回・第 50 回鳥取県演劇連盟合同公演

令和 7 年 8 月 9 日(土)・24 日(日)・31 日(日) 境港市民交流センター ほか

【文化芸術事業評価シート】

		自己評価		評価委員による評価
目的	取組目標	行動計画	達成度及び 評価理由	達成度及び評価理由
文化芸術に親しむ環境づくり	文化芸術活動者の発表や創造機会の提供	第 50 回公演は、連盟加盟の 4 劇団を加えて県内演劇グループ 12 劇団が出演、3 劇団がスタッフ参加をする小演劇祭を県内で初めて開催し、連盟外の劇団をはじめ表現部などの文化芸術活動団体にも出演やスタッフなど発表の場を提供する。	達成度：達成 【成果】 県内 12 劇団が一堂に会しての演劇祭は初の試みで、手探りで実施した部分が多かったが成功した。スタッフ面では表現部と通りのハナコが核となって動き、照明などは鳥取大の演劇部などが担当。連盟内外の各団体が相互に連携を深めた。	達成度：達成 【成果】 県内の演劇集団が一堂に会し、同一会場で公演を行うという前例のない新しい取り組みが成功した。いずれの公演も本格的で質の高い演劇であり、多くの観客にその魅力を伝えることができた。また、演者だけでなく、舞台・客席の設営、舞台道具、音響、照明といった運営面も関係団体のスタッフが分担し合い、発表の機会創出に加えて、互いのノウハウを共有し高め合う場としての機能も果たした。
		小演劇祭においては、同じ舞台装置を使つての短編劇という制約の中、多数の団体でそれに合わせた脚本を執筆し、舞台創作に取り組む。	達成度：達成 【成果】 椅子とテーブルという簡易なセットのいくつかを各団体が自由に使い、同じ椅子とテーブルの並びでも全く異なるカラーの短編作品を上演できた。	達成度：達成 【成果】 椅子とテーブルというシンプルな配置の舞台で、各団体がそれぞれの物語を工夫して上演していた。 加えて、上演エリア、上演時間、舞台道具、照明など同じ条件の中で、各団体がそれぞれの色を創作して表現された。
	誰もが文化芸術活動に親しむことができる環境づくり	第 49 回公演「昭和二十年、夏」は、戦後 80 年の今年、未来を担う児童らに戦争の悲惨さについて、身近な県内で起こった列車空襲を題材とした舞台作品を通じて知ってほしいと、小学生以下無料、中学生以上など大人も 500 円とするなど鑑賞しやすい入場料とする。	達成度：達成 【成果】 児童を無料としたことで学校行事ではないにもかかわらず、一般的な演劇公演よりも児童ら 20 代以下の来場者が多かった。アンケートの声によると保護者も一緒に鑑賞することで、親子での理解が深まったようだ。	達成度：達成 【成果】 太平洋戦争時の「大山口列車空襲」という、実際にあった出来事に加えて、その当時の人々の暮らしを考えさせる独自のストーリーが組み合わさることで、当時の戦争と庶民の日常を見事に表現していた。大人も子どもも一緒に鑑賞できる舞台となっていた。また、入場料金の設定や演者に小中学生を起用するなど若年代にも身近に感じてもらえ

				るような取組みがなされた。
	【前年度の課題】 ※前年度評価対象外			
文化芸術が育む・文化芸術を育む人づくり	①子供たちがアートを鑑賞、体験、実践する機会の創出	①第49回公演では、上演会場のある米子市などで市教委や校長会などの協力を得て各小学校にチラシを配布して案内。 第50回公演では、中高生を核とした「黄色い貨物列車」、小学生が出演する朗読の「演劇ユニット小麦色」、小中学生による「キッズ劇団きのこタケノコ」など複数の団体で子供たちが舞台出演して活動を実践する。	達成度：達成 【成果】 49回公演では、西部地区の小学校でのチラシ配布が奏功し、公演を知った理由として出演者ら友人・知人からの紹介に次ぐ114件の実績。 50回公演は小学1年から高校2年まで計9人が4団体から出演。友人の鑑賞者もあり、アンケート回答率も10代以下が13.7%と、50代、20代に次いで多かった。	達成度：達成 【成果】 第49回では、各方面の協力を得た広報活動が実を結び、出演者や友人紹介に次ぐ多くの観客動員につながった。また、第50回では小学生から高校生までが舞台に立ち、観客としても10代以下が一定の割合を占めるなど、次世代を巻き込んだ舞台活動を実践したことは大きな成果であった。境港の公演でも小学生を演者として起用し、鳥取の公演では小学生、中学生、高校生の演者が起用されていた。
	②若い世代による企画・運営への参加促進や人材育成	②第50回公演では、出演団体の多くが20～30代の若手劇団で、高校生や大学生も合わせて各団体が上演作品を企画。公演全体についても老舗の連盟加盟劇団だけが決めるのではなく、LINEグループを中心としたチャットでのやり取りでパンフ案や音響・照明、当日運営などについて協議。若手の発想や意見を実現させながら人材育成を図る。失敗も成功の母である。 (例)アンケートは紙の配布を減らしてQRコードでの回答を促すなど。	達成度：達成 【成果】 来場者は関係者からの声掛けが多く、若手の出演者・スタッフも多かったため30代以下の若年層の来場が44.9%と多かった。公演関係者はLINEグループを基本に各団体の連絡を取り、公演に向けた企画も団体代表者のもと参加者全員の2つのグループチャットを使った。舞台図なども同グループで共有して進めた。スタッフ同士はZOOMを使ったオンライン会議で意見交換を図るなど、若手の意見を取り入れて舞台制作に取り組んだ。 舞台や照明機材の片付けのバラシでは、ベテランが大学生ら若手に照明器具や黒幕の片付け方を指導するなど技術育成も図った。	達成度：達成 【成果】 若手主体の企画・運営にICTを効果的に取り入れたことで、観客層の若返りが実現した。また、舞台片付けにおける技術指導など、世代間交流を通じた人材育成も進められていた。さらに、舞台仕込みや場当たりの様子からは、県内全域の演者・スタッフがグループLINEやZOOM会議を重ねて綿密に準備してきたことがうかがえ、アンケートをQRコード方式で回収するなど、若手スタッフの提案を積極的に取り込む姿勢も評価できる。
	【前年度の課題】 ※前年度評価対象外			
文化芸術による元気な地域づくり	地域における文化芸術の活性化	県西部で第49回公演を開催、第50回公演は県東部で開催するなど8月中旬に県東西部で連盟公演を開催し、地域での演劇文化活	達成度：概ね達成 【成果】 計画通り、県西部の49回公演では戦後80年の今年、県内であった空襲をテーマにした演	達成度：概ね達成 【成果】 県東西で連盟公演を開催し、地域全体の演劇文化の活性化を図った点は大きな成果であ

		<p>性を図る。(中部では来年度に連盟公演を開催する計画)。</p> <p>第50回公演には、東部・中部だけでなく49回公演主管の米子のありのほか、日野町の劇団も参加。県内全域から参加する全15劇団の連携とネットワークを強化し、今後、各団体の公演での客演やスタッフ協力などそれぞれの地域での演劇文化振興につなげる。</p> <p>また、とりアートで計画されている演劇事業について、今回の公演参加劇団に対して本年度より、ワークショップや再来年度の演劇公演参加を促す広報を実施。本連盟公演だけにとどまらず、総合的に地域で演劇文化を活性化するための下地を作る。</p>	<p>劇公演を上演し、多くの児童にも来場してもらえた。東部の50回公演は、初の全県演劇祭で、米子市や南部町、日野町の出演者には鳥取市内で宿泊してもらおうなど、収支的には赤字だが日野町など西部の劇団の鑑賞機会を鳥取市内でも提供できた。相互に「初めまして」のあいさつをする劇団が多い中で、お互いに連携を深めることができた。</p> <p>すでに出演団体のうち数団体間ですでに客演が決定して稽古に入っている。公演の合間に、次年度以降のとりアートでの演劇事業の取組があることも説明し、連携活動の下地を作れた。</p> <p>【課題】 とりアートへの参加協力を得る話にはなったが大学生や高校2年生以降の生徒らは2027年度には卒業して県内にいない可能性も高く、継続した連携や協力が必要。</p>	<p>る。西部では、戦後80年を迎える大山口駅空襲を題材とし、戦争の悲惨さや愚かさとともに「生きることの奇蹟」を、コミカルな表現も交えて若年層にも分かりやすく描き、多くの児童が来場するなど地域の歴史と文化を伝える貴重な機会となった。東部では、県内12団体が同一舞台・限られた時間・照明・舞台セットを共有しながら、まったく異なるシチュエーションと各団体の個性を鮮やかに表現した。また、演者としての出演にとどまらず、舞台・客席の手づくり、音響・照明を含む技術面を劇団員自身が担当したことで、相互の技術向上にも寄与した。さらに、西部劇団が東部で公演・宿泊を行ったことで地域を超えた交流が深まり、すでに複数団体間で客演が決定するなど、今後の連携強化につながる具体的な動きも見られる。これらの取り組みにより、演じる者・支える者・観る者のすべてが関わる形で地域の文化芸術の活性化が促進された点は高く評価できる。</p> <p>【課題】 一方で、高校生や大学生の出演者は今後卒業や転出の可能性が高く、難しい課題ではあるが、継続的な連携体制の構築が求められる。また、収支面では大きな赤字となっていたため、持続可能な運営方法の検討が課題として残った。</p>
<p>【前年度の課題】 ※前年度評価対象外</p>				
<p>達成度集計</p>			<p>(17/18) ≒ 90%</p>	<p>(17/18) ≒ 90%</p>

【定量目標・実績】

	目標	実績	(参考) 昨年度実績
⑬ アンケート回収率 (%)	35%	49回 86.7% 50回 70.0% 平均 78.4%	対象外
⑭ 観客満足度 (%)	75%	49回 90.0% 50回 95.1% 平均 92.6%	対象外
⑮ 入場者数 (名)	780人	49回 376人 50回 261人 合計 637人	対象外

【自己評価総括】

【成果】第49回公演では、戦後80年の節目の年に身近な地名（米子、大山口、赤碕など）が出てくる実際に県内であった空襲の悲惨さを舞台化した作品を、児童を含む多くの県民に鑑賞してもらったことで、世界各地で戦火が絶えない現代において、平和の大切さや戦争の愚かさを実感していただけた。またアンケートの声からも分かる通り、鑑賞者の身近な方が、実際にあの列車に乗るところだったなど、完全なフィクションではない作品で、身内の体験に関する内容の作品は反響を呼んだ。日本海新聞や山陰中央新報が取材をしてくれたことで、記事を見て来場した方もおられた。

第50回公演は、初めて県内アマ劇団が一堂に会する演劇祭で、手探りの中、行政主導の催事ではなく、県民手作りでも多くの経費を手出ししながらも公演を成功させることができた。アンケートでは、こんなにたくさんの劇団が活動していることを知らなかった。中部や西部でも上演して欲しいなど、活動を広く知ってもらえたと同時に、好意的な感想が多かった。高校生や大学生らの若者と、還暦前後のメンバーが額を付き合わせて舞台作りをする中で、たとえば学生劇団は同年代で作品作りをしているが、今回、舞台上で若者には見える薄暗い中でのバミリテープ（椅子などの設置位置を示すテープ）が、視覚の衰えた年配者には見えないなど、お互いに年齢差による違いを認識することもあった。逆に視覚が衰えたとはいえ、バラシ（舞台撤収）では、ベテランが大学生や30代以下の若手にさまざまなことを指導、アドバイスするなど、年代や団体の枠を超えた交流を図ることができた。日本海新聞や日本海ケーブルネットワークが取材をしてくれた。公演作成に当たっては連盟外の若者の意見も多く取り入れ、QRコードでのアンケートやLINEグループでの舞台図面やタイムスケジュール共有、ZOOMでのオンラインスタッフミーティングなども取り入れて実践できた。

いずれの公演も、アンケート回収率と満足度は定量目標を上回った。

【課題】定量実績について、入場者数が目標780人に対し637人と目標対比81.7%にとどまったのが最大の課題。どんないい舞台作品を上演しても、より多くのお客様に鑑賞していただけないといけない。

（入場者数には出演者数を加えないのが本評価の数字設定なので加えていないが、第50回公演では、上演を2つのグループに分けたうち、上演組ではないグループの劇団員が相互の劇団のカラーの違いを学ぼうと他グループの舞台を鑑賞した者がいる。その鑑賞者数86人を加えても総合計は723人で、目標対比92.7%にとどまったのは大きな反省点である）。

目標を下回った理由の自己分析では49回公演の児童入場者を無料としたことで、より多くの入場があると考えていたことと、50回公演は鳥取市での開催であり、西部地区でのチケット販売に思ったより苦戦したことが挙げられる。目標を高く掲げるのは悪いことではないが、1会場で大きな公演をがつつり開催する場合と比べて、小規模な予算の事業の場合、例えば広報面ではチラシの印刷枚数にも差が出てくる。事業規模に合わせた適切な目標設定をすることも必要だと反省した。

【その他事業に関する意見、感想など】

第 50 回公演では当初、QRコードだけでのアンケートにこだわっていた若者も、「アンケート用紙を配布するほうが、回収率が高くなり鑑賞者の意見を反映しやすい」というベテランの意見を聞き入れて、紙とQRの併用を行ったほか、鳥取大学演劇部員が各団体にインタビューを行って、活動や方針などをSNSで発信。ベテランは古くから続く連盟公演が50回の節目を迎えたこと。50年前から県内でアマ劇団の先人が活動してきた延長に今の自分たち老舗の劇団があること、このバトンを若手に渡して次代の県内の演劇文化を君たち若手に創ってほしいことを説明。大きな拍手で理解を得られた。県内文化団体のいくつかは年々高齢化が進んで、とすれば先細りで活動が停滞してしまいがちだが、若い活動者を見つけてパイプを作り、育成したり今回の演劇祭のような交流発表の場を作っていく努力をこれからも続けていきたいと考えている。

なお、今回は初の演劇祭ということもあり、入場者やアンケート回収数などを自主的に分析した集計表も作成した。見慣れていないと分かりにくいかもしれないが、アンケートの声と合わせて参照いただけると幸いである。

【総括】

【成果】

今回の第49回および第50回合同公演では、地域内の劇団が世代を超えて協働し、県内演劇文化の活性化に大きく寄与した点が最大の成果である。第49回公演では、戦後80年という節目に合わせ、大山口駅空襲を題材にした作品を上演し、子どもを含む幅広い観客に平和の大切さを伝えることができた。

一方、第50回公演では、県内12団体が同じ舞台空間と限られた舞台装置・時間・照明条件を共有しながら、それぞれまったく異なる世界観を立ち上げるという、新しい試みが成功した。短編劇形式によってテンポよく多様な演目を鑑賞でき、観客にとっても貴重な機会となった。

また、舞台や客席の手作り、音響・照明を劇団員自身が担当するなど、演劇祭全体が「手づくりの文化芸術活動」として成立しており、そこに世代間での技術継承も見られた。さらに、QRコードによるアンケート回収やSNS発信などICTを活用した新しい取り組みも行われ、アンケート回収率および満足度はいずれも想定以上であった。こうした活動が、今後の県内演劇文化の持続的な発展に向けた重要な一歩となったといえる。

【課題】

一方で、入場者数については設定した目標値には届かず、広報方法や動員の在り方、さらには目標設定自体の妥当性について見直す必要があることが明らかになった。特に、遠方の地域からの来場者確保には課題が残り、事業規模に即した現実的な数値目標を検討することが求められる。

また、出演していた高校生・大学生の多くは将来的に卒業・転出により県外へ流出する可能性があるため、継続的な人材確保や劇団間の連携体制の強化が今後の課題となる。広報についても、ポスター・チラシ・SNSのみに頼るのではなく、劇団員や家族、観劇者からの口コミを生かしてファン層を少しずつ広げていくような地道な取り組みが必要である。こうした点を踏まえ、地域全体で支える持続可能な体制の構築が望まれる。

【その他事業に関する意見、感想など】

今回の50回という節目において、ベテランから若手への技術や運営ノウハウの継承が明確に見られ、若手が主体的に公演運営に関わったことは大変意義深い。また、QRコードと紙アンケートの併用、SNSでの発信など、新旧の手法を組み合わせた運営が行われた点も評価できる。

他方で、アンケートの質問文に分かりにくい表現があったことや、会場特性によって視認性・聴取性に差が生じたことなど、細かな改善点も指摘された。東部公演では舞台エリアや客席を手作りし、光を遮断する演出が効果を上げた一方、蛍光マーカーが見えづらいなどの課題が見られた。音響・照明を劇団員が担当し、複雑な指示に対応していた点は大変評価できるが、観客席によっては見えにくさ・聞こえにくさが生じた可能性もある。

今回の演劇祭を通じて、県内に多くのアマチュア劇団が活動していることが改めて可視化され、地域文化資源としての価値を再認識する機会ともなった。今後もこのような交流と発表の場が継続され、県内演劇文化の持続的な発展につながることを期待したい。

(参考)

鳥取県文化芸術事業評価委員会委員名簿（令和6年度事業評価）

氏名	所属等	備考
石谷 依利子	砂丘 YOGA 代表	
荻原 恵子	フォークダンス、レクリエーションダンス、 日本民謡指導者	
奥田 晃巳	淀江さんこ節保存会事務局長	
川口 朋子	DANCE for REAL 代表	
小林 圭子	ミュージック・オフィス♪DoReMi 代表	
下田 悟	(一社)鳥取県建築士事務所協会事務局長	
谷口 透	地域価値創造研究教育機構地域未来共創センターセンター長特別補佐	会長
中村 由紀人	学校法人鶏鳴学園評議員	
村田 速実	打吹童子ばやし代表、社会福祉法人みのり福社会理事長	
山川 智馨	鳥取短期大学幼児教育保育学科助教	
渡邊 寛智	島根県立大学短期大学部保育学科教授	副会長

※令和8年3月末時点

事業別評価報告書執筆担当一覧

番号	事業名	主体	団体名	実施日	実地検証 委員数	執筆担当
1	第23回鳥取県総合芸術文化祭・とりアート2025次世代育成事業	鳥取県総合芸術文化祭実行委員会	鳥取県総合芸術文化祭実行委員会	令和7年10月11日(土) 12日(日)	1	谷口委員 川口委員
2	第23回鳥取県総合芸術文化祭・とりアート2025展示事業			令和7年11月28日(金)～ 12月28日(日)	1	荻原委員 石谷委員
3	第69回鳥取県美術展覧会	鳥取県	地域社会振興部 文化政策課	令和7年9月13日(土) ～11月2日(日)	0	山川委員 小林委員 中村委員
4	第23回鳥取県ジュニア美術展覧会			令和7年11月28日(金)～ 令和8年1月18日(日)	0	下田委員 村田委員
5	鳥取県演劇連盟合同公演	鳥取県文化団体連合会	鳥取県演劇連盟	令和7年8月9日(土)・24日(日)・30日(土)・31日(日)	1	渡邊委員 奥田委員

評価委員会の開催状況

回数	開催日	報告・協議内容
第1回	令和7年7月2日	1. 協議事項 ア 令和7年度評価方針について イ 令和7年度評価対象事業について ウ 令和7年度評価事業の実地検証・執筆担当について
第2回	令和8年3月10日	1. 審議事項 令和7年度事業別評価報告書案について 2. 事業実施者への評価報告及び意見交換 ・第69回鳥取県美術展覧会 ・第23回鳥取県ジュニア美術展覧会
第3回	令和8年3月18日	1. 事業実施者への評価報告及び意見交換 ・第23回鳥取県総合芸術文化祭・とりアート2025企画事業 ・第23回鳥取県総合芸術文化祭・とりアート2025展示事業 ・鳥取県演劇連盟合同公演

鳥取県文化芸術事業評価委員会設置要綱

(目的)

第1条 県が実施又は助成する文化芸術事業のうち、次条に掲げる事業を年度ごとに点検することにより、当該事業における良質な作品創造や県民の文化芸術事業への鑑賞、参加の機会の充実及び効率的な事業の運営方法を確立することを目的に鳥取県文化芸術事業評価委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(評価対象事業)

第2条 評価対象事業は、委員会と県が協議のうえ、次に掲げる事業のうちから選定する。

- (1) 鳥取県総合芸術文化祭主催事業
- (2) 鳥取県文化団体連合会加盟団体助成事業

(委員会の任務)

第3条 委員会は、鳥取県附属機関条例（平成25年鳥取県附属機関条例第53号）別表第1で定める事項を調査審議するものとし、委員会の任務の具体的内容は次の各号に掲げる事項とする。

- (1) 評価に係る実施方針の決定
- (2) 評価項目の作成及び調整
- (3) 評価報告書の作成、公表及び評価報告会の開催
- (4) 評価対象事業における改善が必要な事項の指摘
- (5) 被評価者が作成する改善計画の承認

(委員の任務)

第4条 鳥取県文化芸術事業評価委員会の委員（以下「委員」という。）は、作品の鑑賞・実地検証及びアンケート調査資料等に基づく評価を行う。なお、評価対象事業の企画・立案に関わる者は、当該事業の評価を行うことができない。

2 委員会は、複数年にわたり改善が認められない評価対象事業について、県に対し補助金支出の妥当性に係る説明を求めることができる。

(組織)

第5条 委員会は、県民（県内在勤者を含む。）で、調査審議する事項に関し知識又は経験を有する者のうちから、知事が任命する。

2 委員会は、委員15名以内をもって組織する。

(会長)

第6条 委員会に会長を置く。

- 2 会長は委員の中から互選する。
- 3 会長は、会務を総理し、委員会を代表する。
- 4 会長に事故あるときは、あらかじめ会長が指名する委員が、その職務を代理する。

(任期)

第7条 委員の任期は2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることがある。

(会議)

第8条 委員会の会議は、会長（会長が定まる前にあつては委員会の庶務を行う所属の長）が招集し、会長が議長となる。

- 2 委員会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開くことができない。
- 3 会議の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数の場合は、議長の決するところによる。
- 4 会議には、会長が必要と認めるときは、委員以外の者に出席を求めることができる。

(事務局)

第9条 会議の事務を処理するため、鳥取県地域社会振興部文化政策課に事務局を置く。

(要綱の改正)

第10条 この要綱の改正は、会議の決議を受けなければならない。

(補則)

第11条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、会長が委員会に諮り、別に定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、平成26年1月15日から施行する。
- 2 平成25年度中に任命する委員の任期については、第5条第2項の規定にかかわらず、平成26年3月31日までとする。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、平成27年7月15日から施行する。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、平成28年2月5日から施行する。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、令和元年7月24日から施行する。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、令和6年7月10日から施行する。

令和7年度鳥取県文化芸術事業評価報告書

令和8年3月

〒680-8570

鳥取市東町一丁目220番地

鳥取県文化芸術事業評価委員会（事務局：鳥取県地域社会振興部文化政策課内）

電話：0857-26-7839

ファクシミリ：0857-26-8108

<令和7年度>

鳥取県文化芸術事業

評価報告書

《資料編》

鳥取県文化芸術事業評価委員会

～ 目 次 ～

1	事業別定量目標・実績	1
2	各事業アンケート集計結果	
(1)	第23回鳥取県総合芸術文化祭・とりアート2025次世代育成事業(鳥取県総合芸術文化祭実行委員会)	2
(2)	第23回鳥取県総合芸術文化祭・とりアート2025展示事業(Ⅱ)	8
(3)	第69回鳥取県美術展覧会(鳥取県地域社会振興部文化政策課)	10
(4)	第23回鳥取県ジュニア美術展覧会(Ⅱ)	13
(5)	第49回・第50回鳥取県演劇連盟合同公演	17

1 定量目標・実績

番号	事業名	主体	団体名	実施日	実地検証 委員数	執筆担当
1	第23回鳥取県総合芸術文化祭・ とりアート2025次世代育成事業	鳥取県総合芸術文化祭実行委員会	鳥取県総合芸術文化祭実行委員会	令和7年10月11日(土) 12日(日)	1	谷口委員 川口委員
2	第23回鳥取県総合芸術文化祭・ とりアート2025展示事業			令和7年11月28日(金)～ 12月28日(日)	1	荻原委員 石谷委員
3	第69回鳥取県美術展覧会	鳥取県	地域社会振興部 文化政策課	令和7年9月13日(土) ～11月2日(日)	0	山川委員 小林委員 中村委員
4	第23回鳥取県ジュニア美術展覧会			令和7年11月28日(金)～ 令和8年1月18日(日)	0	下田委員 村田委員
5	鳥取県演劇連盟合同公演	鳥取県文化団体連合会	鳥取県演劇連盟	令和7年8月9日(土)・24日(日)・30日(土)・31日(日)	1	渡邊委員 奥田委員

2 各事業アンケート集計結果

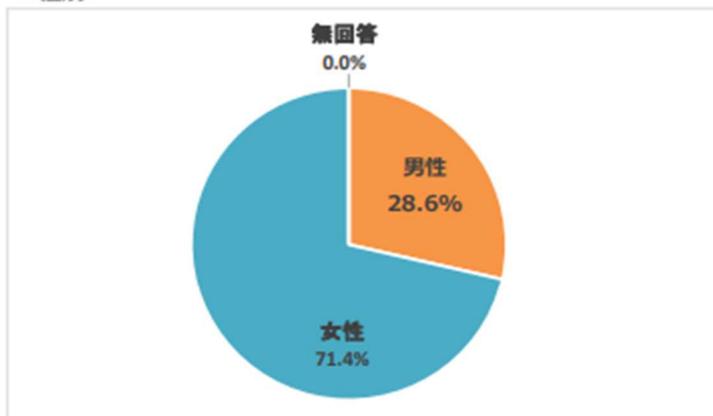
(1) 第23回鳥取県総合芸術文化祭・とりアート2025次世代育成事業

令和7年10月11日(土)・12日(日)鳥取県立美術館 ほか

<来場者アンケート>

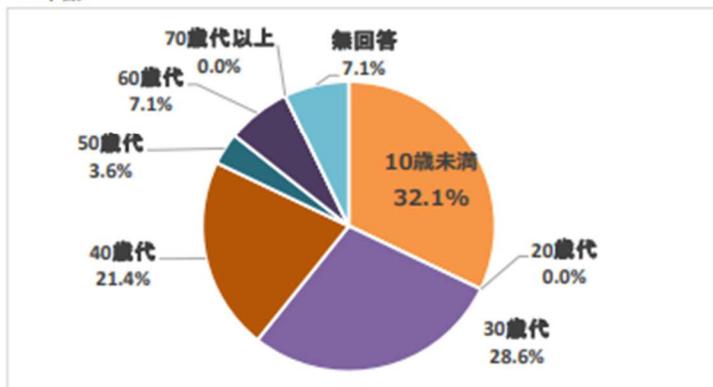
アートワークショップ ^o				
令和7年10月11日(土)	来場者数	延べ870人	配布数	69枚
			回収数	28枚
			回収率	41%

■性別



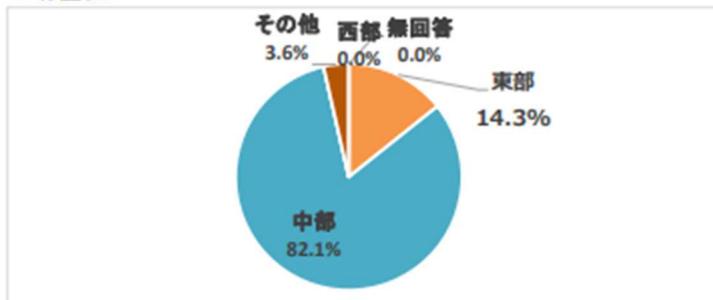
28.6%	男性	8
71.4%	女性	20
0.0%	無回答	0
	合計	28

■年齢



32.1%	10歳未満	9
0.0%	20歳代	0
28.6%	30歳代	8
21.4%	40歳代	6
3.6%	50歳代	1
7.1%	60歳代	2
0.0%	70歳代以上	0
7.1%	無回答	2
	合計	28

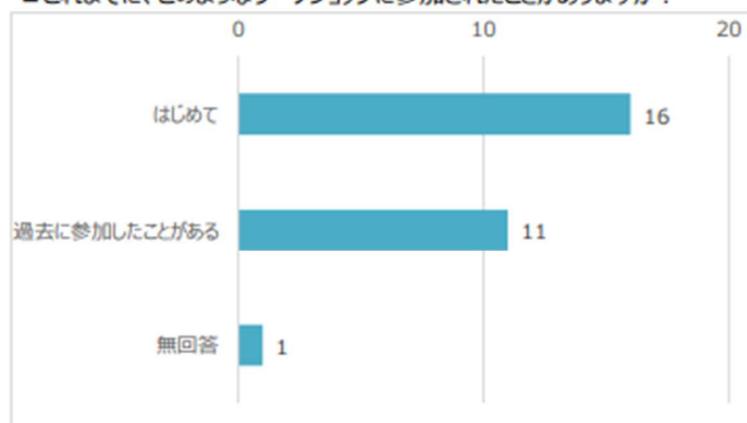
■お住まい



14.3%	東部	4
82.1%	中部	23
0.0%	西部	0
3.6%	その他	1
0.0%	無回答	0
	合計	28

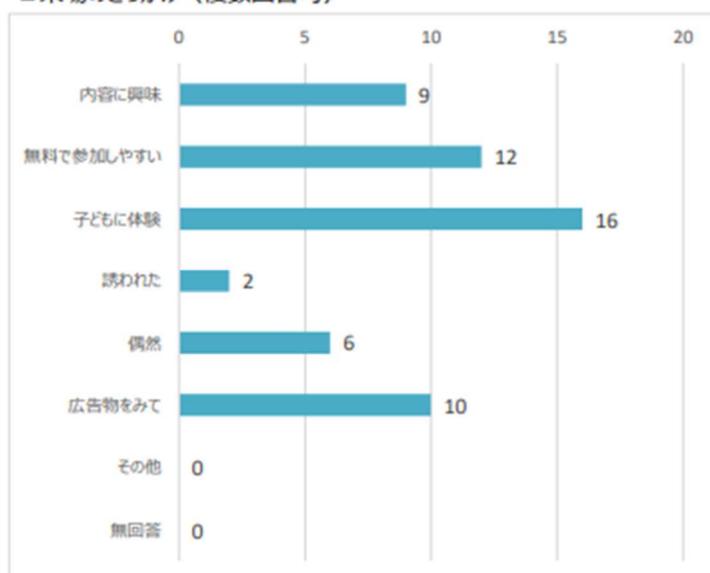
【その他】	大阪	1
-------	----	---

■ これまでに、このようなワークショップに参加されたことがありますか？



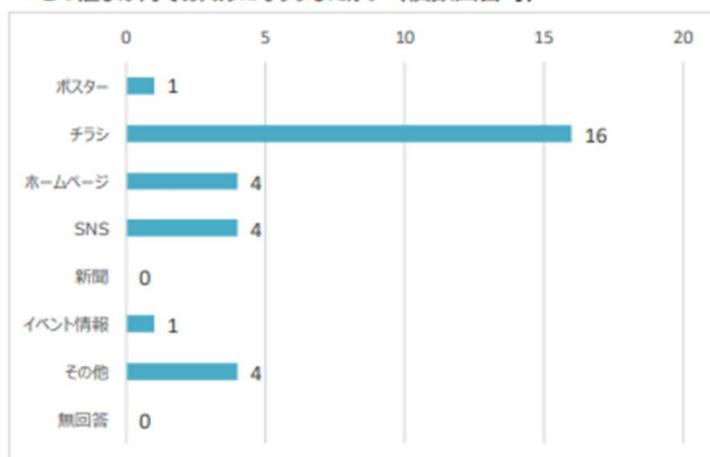
57.1%	はじめて	16
39.3%	過去に参加したことがある	11
3.6%	無回答	1
	合計	28

■ 来場のきっかけ（複数回答可）



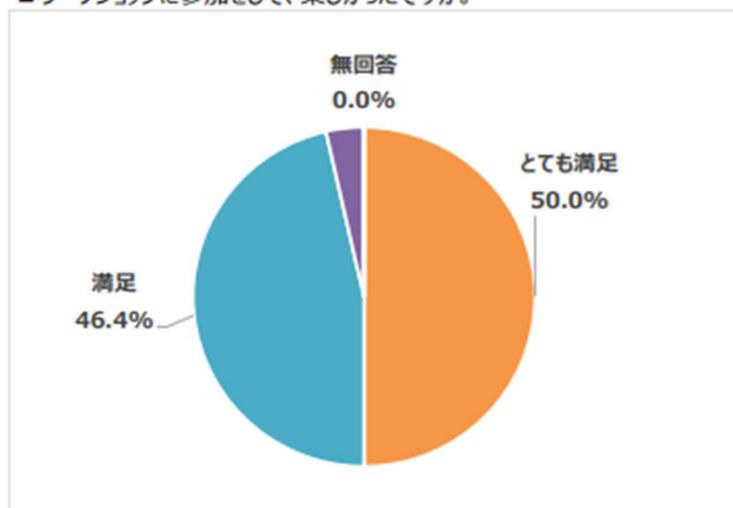
16.4%	内容に興味	9
21.8%	無料で参加しやすい	12
29.1%	子どもに体験	16
3.6%	誘われた	2
10.9%	偶然	6
18.2%	広告物を見て	10
0.0%	その他	0
0.0%	無回答	0
	合計	55

■ この催しは何で知りになりましたか。（複数回答可）



3.3%	ポスター	1
53.3%	チラシ	16
13.3%	ホームページ	4
13.3%	SNS	4
0.0%	新聞	0
3.3%	イベント情報	1
13.3%	その他	4
0.0%	無回答	0
	合計	30

■ワークショップに参加をして、楽しかったですか。



50.0%	とても満足	14
46.4%	満足	13
3.6%	普通	1
0.0%	不満	0
0.0%	とても不満	0
0.0%	無回答	0
	合計	28

満足度 96.4%

動物の謝肉祭コンサート

令和7年10月12日(日)

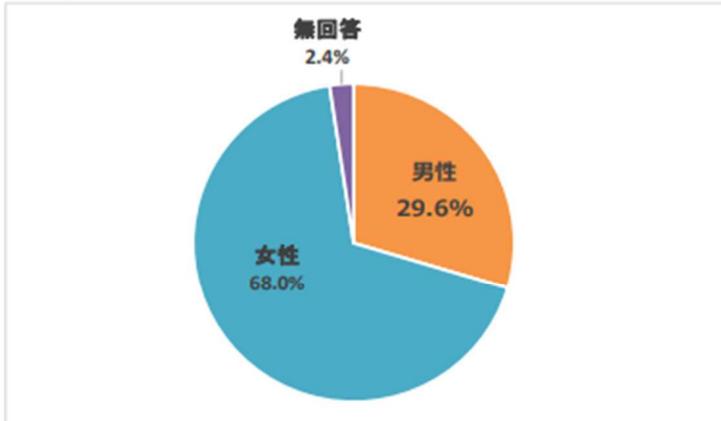
来場者数 233 人

配布数 227 枚

回収数 125 枚

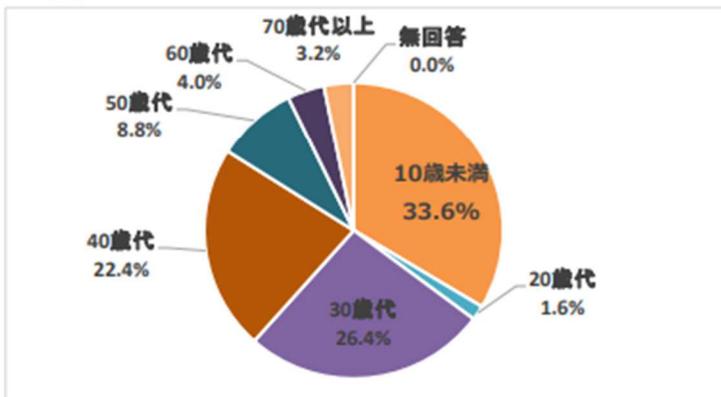
回収率 55%

■ 性別



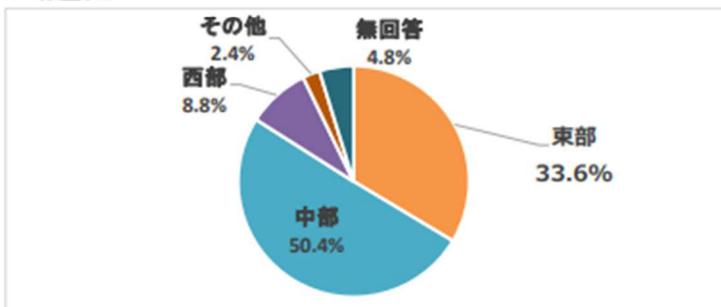
29.6%	男性	37
68.0%	女性	85
2.4%	無回答	3
	合計	125

■ 年齢



33.6%	10歳未満	42
1.6%	20歳代	2
26.4%	30歳代	33
22.4%	40歳代	28
8.8%	50歳代	11
4.0%	60歳代	5
3.2%	70歳代以上	4
0.0%	無回答	0
	合計	125

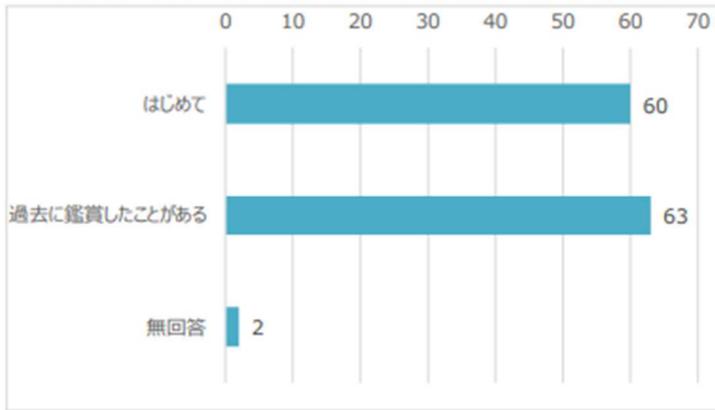
■ お住まい



33.6%	東部	42
50.4%	中部	63
8.8%	西部	11
2.4%	その他	3
4.8%	無回答	6
	合計	125

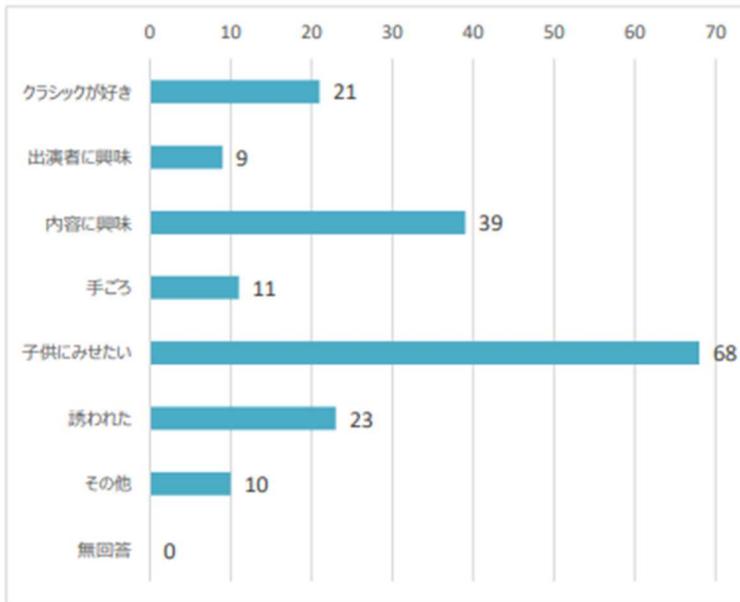
【その他】	大阪	1
-------	----	---

■ これまでに、このようなクラシックコンサートを鑑賞されたことがありますか？



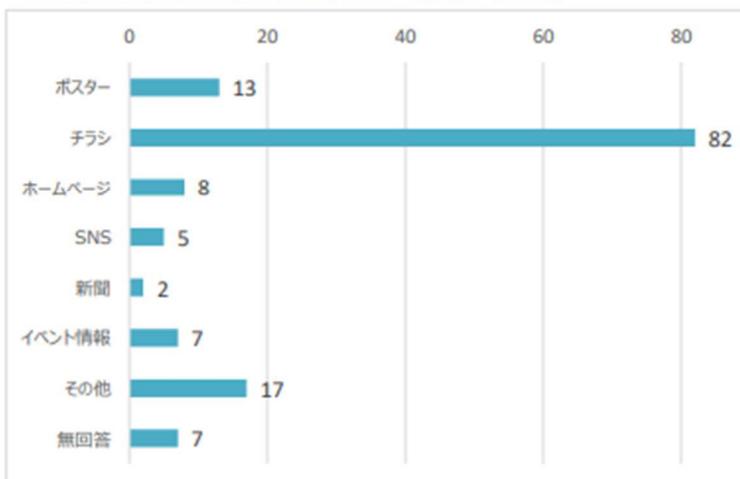
48.0%	はじめて	60
50.4%	過去に鑑賞したことがある	63
1.6%	無回答	2
	合計	125

■ 来場のきっかけ（複数回答可）



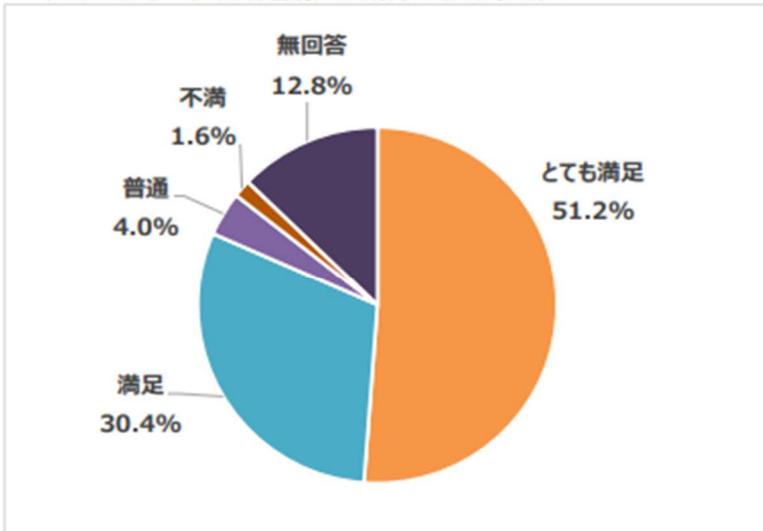
11.6%	クラシックが好き	21
5.0%	出演者に興味	9
21.5%	内容に興味	39
6.1%	手ごろ	11
37.6%	子供にみせたい	68
12.7%	誘われた	23
5.5%	その他	10
0.0%	無回答	0
	合計	181

■ この催しは何でお知りになりましたか。（複数回答可）



9.2%	ポスター	13
58.2%	チラシ	82
5.7%	ホームページ	8
3.5%	SNS	5
1.4%	新聞	2
5.0%	イベント情報	7
12.1%	その他	17
5.0%	無回答	7
	合計	141

■本日のコンサートは、お客様のご期待にそえましたか？



51.2%	とても満足	64
30.4%	満足	38
4.0%	普通	5
1.6%	不満	2
0.0%	とても不満	0
12.8%	無回答	16
	合計	125

満足度 81.6%

(3) 第23回鳥取県総合芸術文化祭・とりアート2025 展示事業

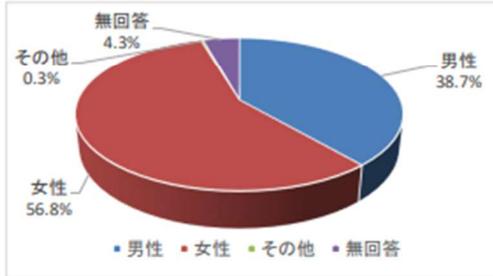
令和7年11月28日(金)～12月28日(日) とりぎん文化会館 ほか

<来場者アンケート>

とりアート2025展示事業 来場者アンケート集計

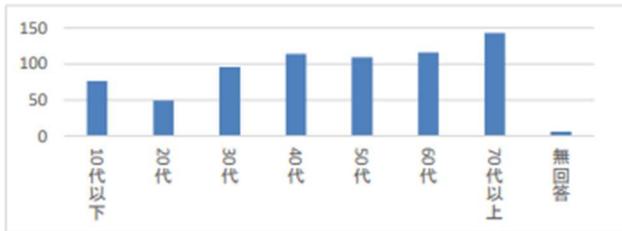
来場者数	1,274 人	回収数	724 枚
配布数	1,274 枚	回収率	56.8 %

■性別



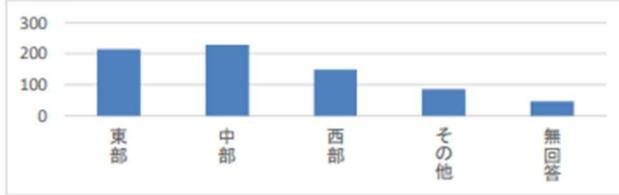
	回答数	割合	R6
男性	280	38.7%	38.6%
女性	411	56.8%	55.7%
その他	2	0.3%	0.9%
無回答	31	4.3%	4.7%
合計	724		

■年代



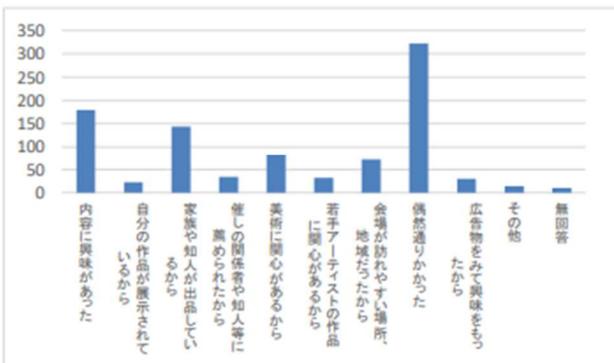
	回答数	割合	R6
10代以下	76	10.7%	9.0%
20代	49	6.9%	8.3%
30代	96	13.5%	8.8%
40代	114	16.1%	17.3%
50代	109	15.4%	18.5%
60代	116	16.4%	20.9%
70代以上	143	20.2%	15.4%
無回答	6	0.8%	1.9%
合計	709		

■お住いの地域



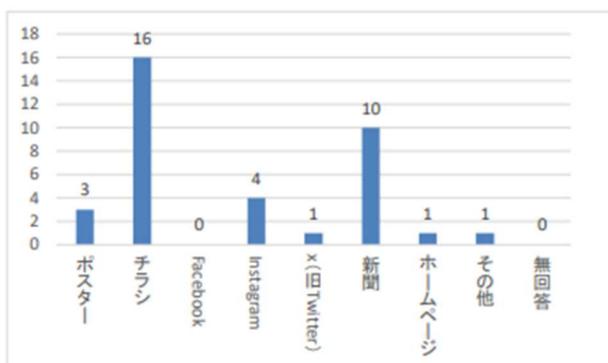
	回答数	割合	R6
東部	214	29.6%	45.0%
中部	228	31.5%	24.2%
西部	149	20.6%	18.5%
その他	86	11.9%	5.9%
無回答	47	6.5%	6.4%
合計	724		

■本日の催しを鑑賞(参加)された理由を教えてください。(複数回答可)



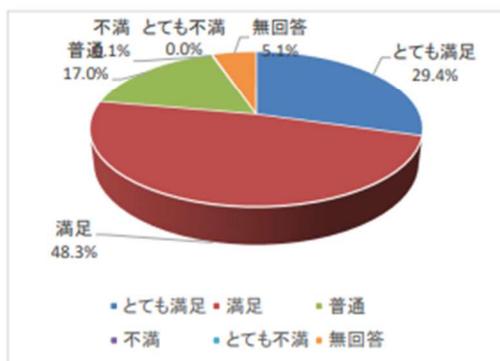
	回答数	割合	R6
内容に興味があった	180	19.1%	19.1%
自分の作品が展示されているから	23	2.4%	0.6%
家族や知人が出品しているから	144	15.3%	5.5%
催しの関係者や知人等に薦められたから	34	3.6%	3.7%
美術に関心があるから	82	8.7%	13.0%
若手アーティストの作品に関心があるから	32	3.4%	11.0%
会場が訪れやすい場所、地域だったから	72	7.6%	8.1%
偶然通りかかった	322	34.1%	28.5%
広告物を見て興味をもったから	30	3.2%	8.2%
その他	14	1.5%	1.3%
無回答	10	1.1%	0.9%
合計	943		

■興味を持った広報物



	回答数	割合	R6
ポスター	3	8.3%	
チラシ	16	44.4%	8.0%
Facebook	0	0.0%	34.0%
Instagram	4	11.1%	0.0%
x(旧Twitter)	1	2.8%	6.0%
新聞	10	27.8%	0.0%
ホームページ	1	2.8%	50.0%
その他	1	2.8%	2.0%
無回答	0	0.0%	0.0%
合計	36		

■本日の催しの感想を教えてください。



	回答数	割合	R6
とても満足	213	29.4%	21.6%
満足	350	48.3%	54.7%
普通	123	17.0%	19.9%
不満	1	0.1%	0.7%
とても不満	0	0.0%	0.5%
無回答	37	5.1%	2.6%
合計	724		

(4) 第69回鳥取県美術展覧会

令和7年9月13日(土)～11月2日(日) 鳥取県立美術館 ほか

<来場者アンケート>

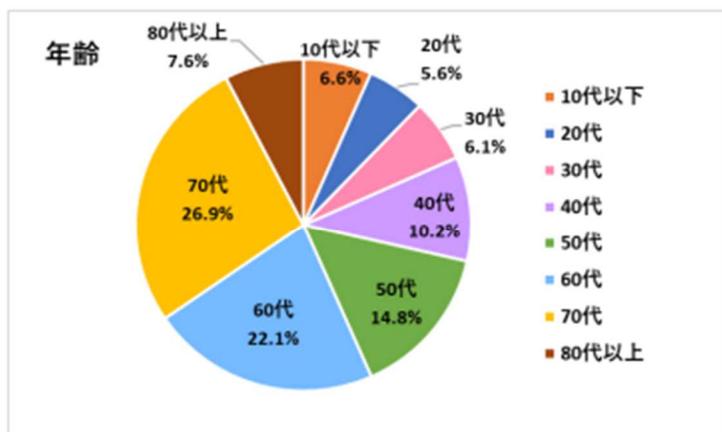
【定量目標・実績】

項目	目標	実績	(参考) 昨年度実績
アンケート回収率	58%	51.1%	55.8%
観客満足度	90%	84.9%	86.5%
入場者数	8,300人	10,715人	7,873人

【来場者の年齢】

(単位:人)

年齢	10代以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
実績	328	280	305	510	738	1,100	1,342	380
(参考) 昨年度実績	196	167	212	341	500	999	1,294	374

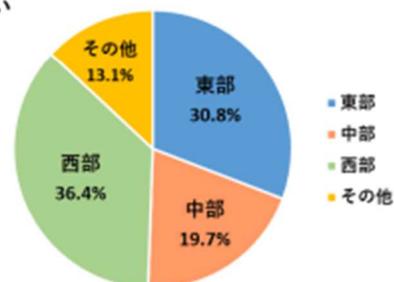


【お住まいの地域】

(単位:人)

地区	東部	中部	西部	その他
実績	1,467	939	1,732	622
(参考) 昨年度実績	1,348	898	1,208	330

お住まい

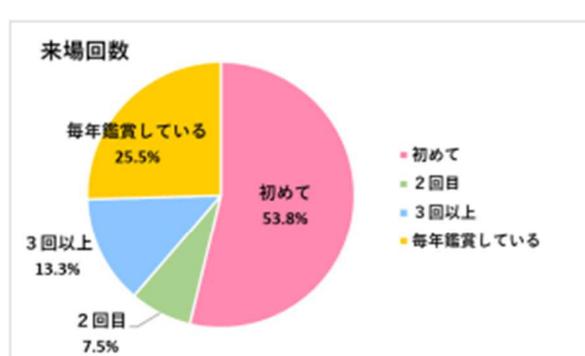


※「その他」と回答された方の内容

倉吉会場	鳥取会場	米子会場	日南会場
岡山県 64 (岡山市、津山市) 島根県 47 (松江市、出雲市) 兵庫県 42 (神戸市ほか) 大阪府 35 (大阪市、貝塚市) 東京都 27 神奈川県 21 (横浜市、藤沢市) 京都府 18 (京都市ほか) 広島県 13 (広島市ほか) 愛知県 6 (名古屋市、西尾市) 上記以外 33 (香川県、千葉県、北海道ほか) 海外 5 (カナダ、韓国、フィリピン)	兵庫県 30 (新温泉町、豊岡市) 大阪府 27 (大阪市、吹田市) 岡山県 11 (岡山市) 東京都 5 奈良県 5 愛知県 3 神奈川県 3 (横浜市) 島根県 3 (松江市) 上記以外 16 (愛媛県、滋賀県、広島県、北海道ほか) 海外 8 (中国、台湾、アメリカ、香港)	島根県 38 (松江市、安来市) 岡山県 9 (倉敷市、津山市) 大阪府 7 広島県 5 (広島市) 上記以外 16 (香川県、兵庫県、北海道ほか) 海外 10 (韓国、台湾、香港、中国)	岡山県 8 (新見市、真庭市) 島根県 6 (松江市、安来市) 広島県 3 (庄原市) 兵庫県 3 (神戸市) 大阪府 2 京都府 1 埼玉県 1 千葉県 1 東京都 1 福岡県 1

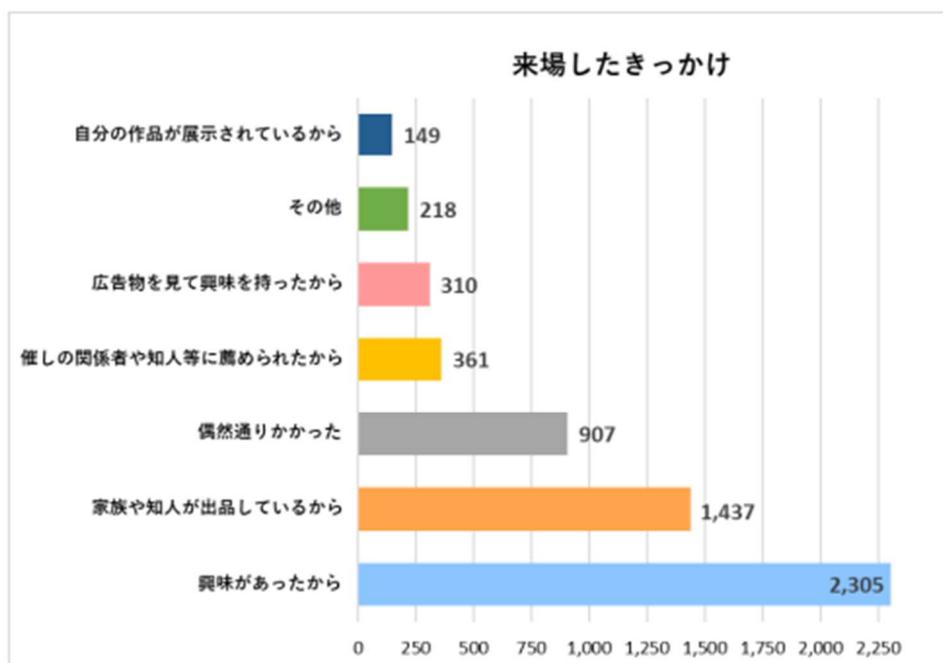
問1 本日の催しを鑑賞(参加)されたのは何回目ですか。

回数	初めて	2回目	3回以上	毎年鑑賞している
実績	2,610	365	644	1,236
(参考) 昨年度実績	1,501	313	707	1,432



問2 本日の催しを鑑賞(参加)された理由を教えてください。(複数回答可)

理由	興味があったから	自分の作品が展示されているから	家族や知人が出品しているから	催しの関係者や知人等に薦められたから	偶然通りかかった	広告物を見て興味を持ったから	その他
実績	2,305	149	1,437	361	907	310	218
(参考) 昨年度実績	2,087	149	1,206	279	407	576	187



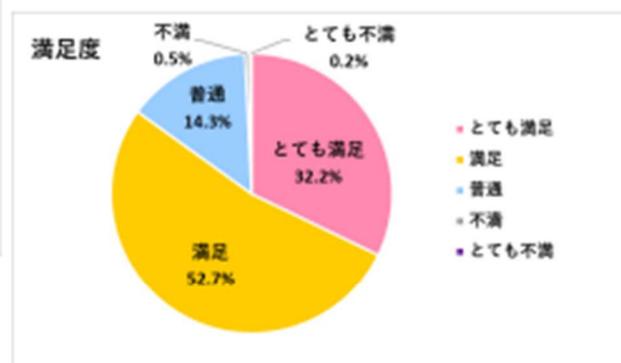
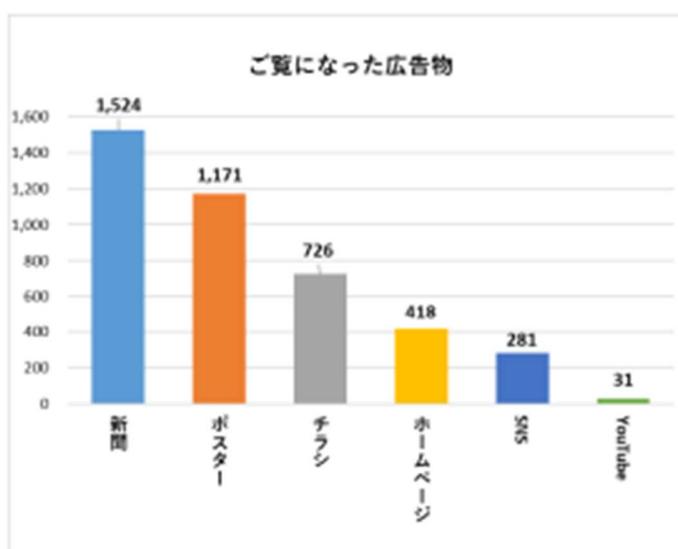
※問2で「その他」と回答された方の具体的内容

倉吉会場	鳥取会場	米子会場	日南会場
<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事 ・町内老人会 ・旅行、観光、ツアー ・テレビのニュース <p>・新しい美術館に来てみたかった。 ・県美での初展示の様子を観たかった。 ・全部門を一度に鑑賞したいから。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動 ・お城まつり <p>・前期を観て、後期も観たくなった。 ・若い頃は毎年出品していたから。 ・注目している人の作品があったから。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・広報よなご(市報) ・テレビのニュース <p>・観光で行った街の美術館へ行くのが好きだから。 ・勉強のため、先生の作品を見に来た。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事 ・アトリエ ・任意団体の活動 ・地域イベント ・防災無線 ・スタンプラリー ・にちなんふる里まつり <p>・米子会場に行けなかったから。</p>

問3 ご覧になった広告物を教えてください。(複数回答可)

広告物	ポスター	チラシ	SNS	YouTube	新聞	ホームページ
実績	1,171	726	281	31	1,524	418
(参考) 昨年度実績	113	80	34	-	300	37

※昨年度は、問2で「広告物を見て興味を持ったから」を選択した方のみが回答する設問だった。



問4 本日の催しの感想を教えてください。

感想	とても満足	満足	普通	不満	とても不満
実績	1,475	2,416	655	24	11
(参考) 昨年度実績	1,040	2,210	488	16	4

(5) 第23回鳥取県ジュニア美術展覧会

令和7年11月28日(金)～令和8年1月18日(日) 県立美術館 ほか

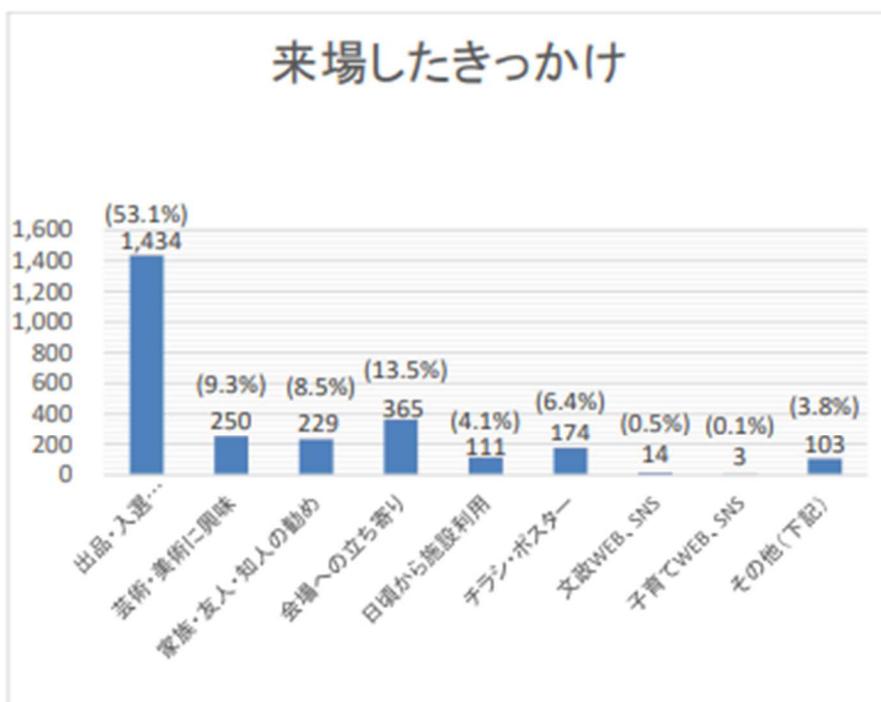
<来場者アンケート>

【定量目標・実績】

項目	実績	目標	(昨年度実績)
アンケート回収率	42.4%	50.0%	48.8%
観客満足度	98.7%	98.0%	98.3%
入場者数	5,423人	5,200人	5,178人

【問1 今回の展覧会に来場されたきっかけを教えてください。(いくつでも可)】

理由	出品・入選したから	芸術・美術に興味があるから	家族・友人・知人の勧め	会場への立ち寄り	日頃から施設を利用している	チラシ・ポスターを見て	文化政策課WEB、SNSを見て	子育て王国とっとりサイト、SNSを見て	その他
実績	1,434	250	229	365	111	174	14	3	103
昨年度実績(参考)	1,763	301	233	210	125	237	11	8	73

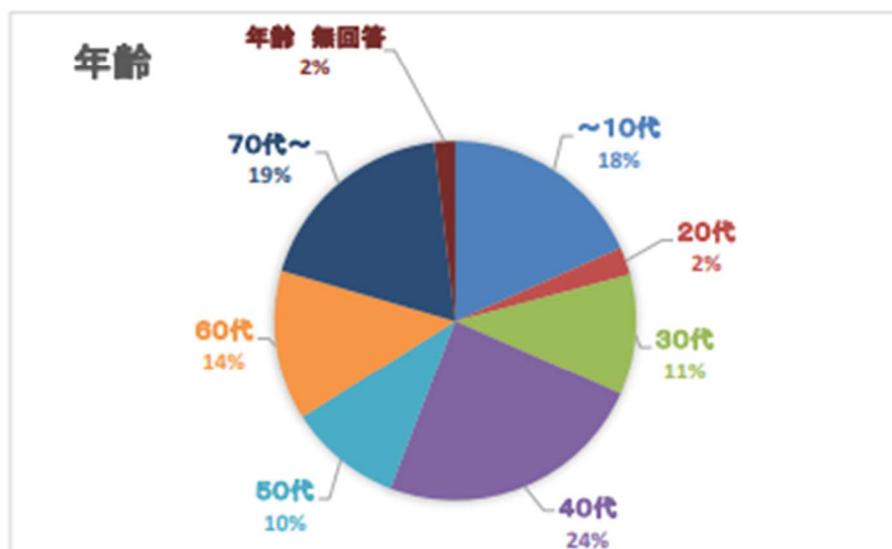


※問1でその他と回答された方の具体的内容

東部（鳥取県立博物館）	中部（鳥取県立美術館）	西部（米子市美術館）
<ul style="list-style-type: none"> ・毎行っているから ・知人・教え子の作品が入選した ・孫に教えられて ・お城に行くついで ・博物館、市立図書館のチラシを見て ・観光 ・たまたま 	<ul style="list-style-type: none"> ・友人・知人・教え子が入選した ・地域・公民館の活動 ・ツアー・旅行で ・職場ですすすめられた ・県内の入選作品が全て見られるから ・子どもに作品を見せたかったから ・たまたま、ふらっと 	<ul style="list-style-type: none"> ・友人・知人・教え子が入選した ・入選していないけど応募したから ・図書館・市役所に寄るついで ・同時開催の他展示を見に来たついで ・立て看板が楽しそうで、最終日だった

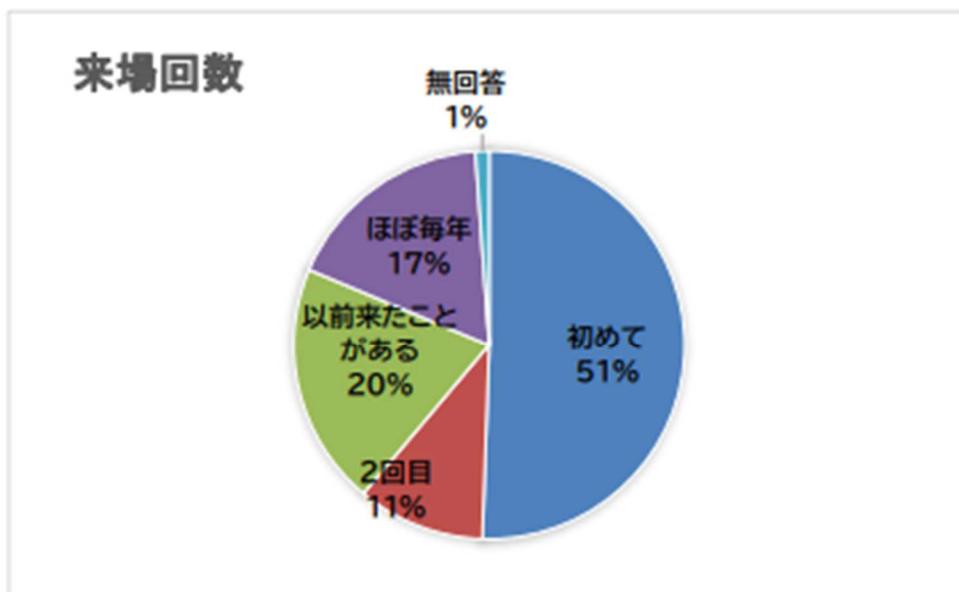
【問2 あなたの年齢についてお教えてください。※回答可能な方はお願いします。】

年齢	19才以下	20代	30代	40代	50代	60代	70才以上	無回答
実績	422	57	250	556	234	312	428	43
昨年度実績(参考)	694	55	241	613	242	262	374	45



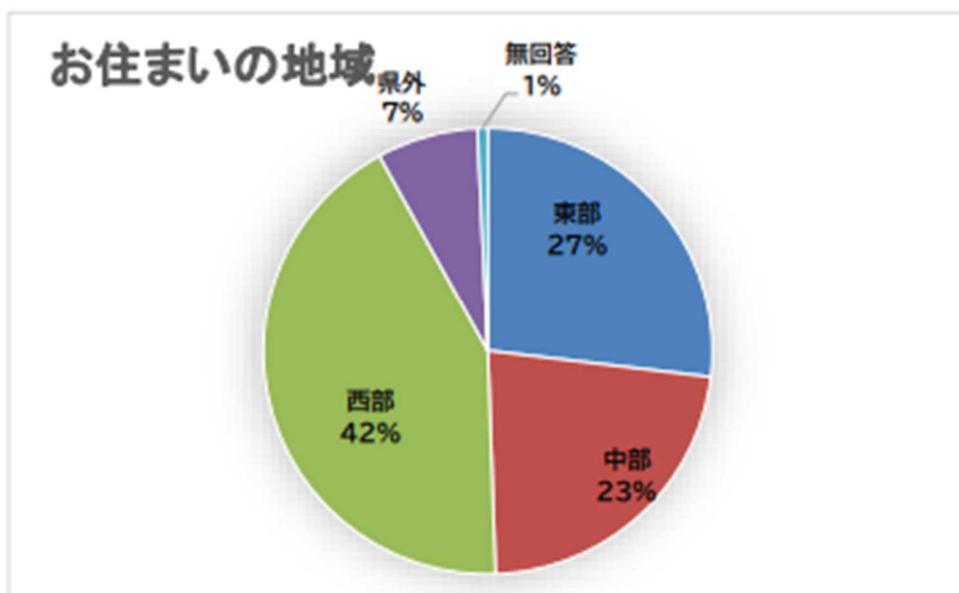
【問3 ジュニア県展へは、以前にも来場されたことがありますか。】

回数	初めて	2回目	以前来たことがある	毎年鑑賞している	無回答
実績	1164	243	466	403	26
昨年度実績(参考)	1,188	271	547	487	33



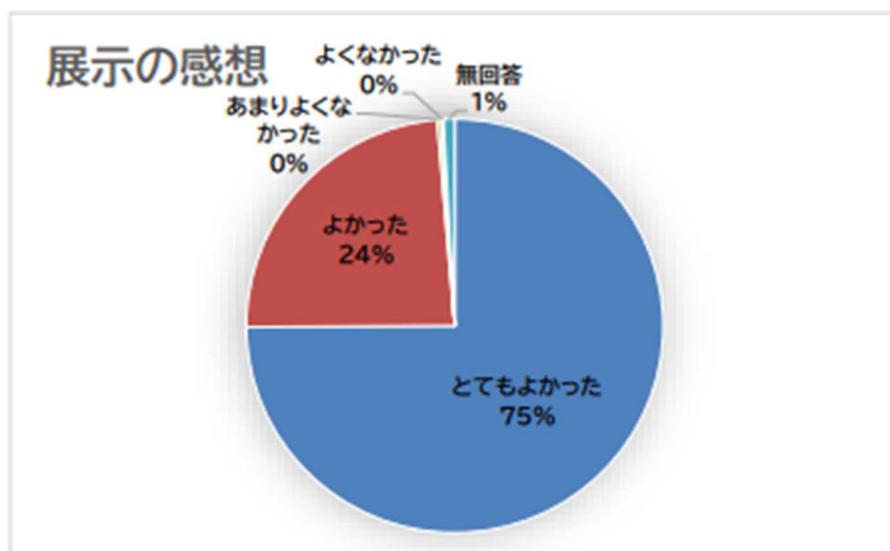
【問4 どちらから来られましたか。】

地区	東部	中部	西部	県外	無回答
実績	617	518	976	167	17
昨年度実績(参考)	901	468	1,010	109	38



【問5 展示の感想をお聞かせください。】

感想	とてもよかった	よかった	あまりよくなかった	よくなかった	無回答
実績	1,724	574	7	4	20
昨年度実績(参考)	1,821	661	9	3	32



(6) 第49回・第50回演劇連盟合同公演

令和7年8月9日(土)・24日(日)・31日 境港市民交流センター ほか

一般来場者は261人。これとは別に客席には、異なる上演グループの劇団員の鑑賞者がのべ86人あったが数字には反映しない。

来場者数・アンケート回収率(上演回別)

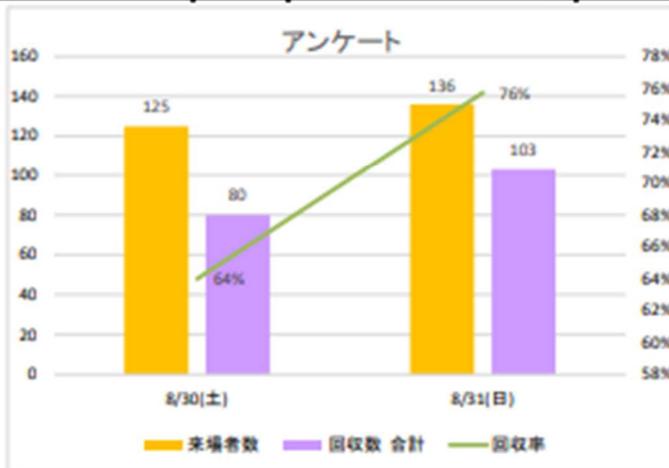
	来場者数	回収数 (紙)	回収数 (QR)	回収数 合計	回収率
8/30(土)①因15:30	60	24	5	29	48%
8/30(土)②伯18:00	65	30	8	38	58%
8/30(土)①②	-	11	2	13	-
8/31(日)③因13:00	89	37	8	45	51%
8/31(日)④伯16:00	47	18	15	33	70%
8/31(日)③④	-	5	3	8	-
8/30(土)・8/31(日)	-	-	17	17	-
計	261	125	58	183	70%

アンケート回収率(日別)

	来場者数	回収数	回収率
8/30(土)	125	80	64%
8/31(日)	136	103	76%
	261	183	70%

満足度 95.1%(詳細は3ページ目)

※両日にノ回答のアンケート回収率は31日分に含めて計算した



【分析】アンケート

アンケート用紙は、当日パンフレット・鉛筆(ペグシル)とともに、受付(ご来場)の際に配布した。来場者261名に対し、アンケート回収数は183件、平均回収率は70%となった。

30(土)の回収率が低いのは、因グループ終演から伯グループ開場まで20分程度しかなく、完全入れ替え制でロビーも使用できないため、記入時間がなかったためと考えられる。

また、アンケート用紙には、webからも回答できるようQRコード(Googleフォーム)を印刷し、回答を受け付ける形もとった。

アンケートは、終演後に会場で記載していただく形と、回答期限を設けてwebで回答を受け付ける形をとったことで、ご来場者様のご都合にあった回答方法を選択していただけたと推察される。

Web回答は58枚(22%)で、紙回答より観劇後にゆっくり書いていただける分、各団体ごとへのご感想や、長い文章でご回答していただける方もおられた。Webアンケート回答も、従来より定着してきている。

今回のアンケートはご来場回ごとにアンケートを配布したが、通し(1日で2公演)や、両日をご観劇されている方も多くおられ、回答に繋がらなかった部分も多くあるように思われる。

観客者数・入場率

	観客数	割合	入場率
8/30(土)①因15:30	60	23%	55%
8/30(土)②伯18:00	65	25%	60%
8/31(日)③因13:00	89	34%	71%
8/31(日)④伯16:00	47	18%	38%
計	261	100%	56%

<客席数>

8/30(土) 109席: 下手平台34席・上手平台36席・中央2列19席・稼働客席20席
8/31(日) 125席: 上記に稼働客席16席を追加

【分析】観客者数

8/30(土)126名、8/31(日)136名 計261名のご来場があり、4公演のうちの2公演を1日通し券で観賞される方、両日ご来場くださった方、同じグループの両方を観賞される方など、観賞方法はさまざまだった。また、観劇目的の団体の上演のみを鑑賞される方もあり、上演中の途中入退場もあった。

今回の演劇祭は、県内の12の上演団体が集ったことで、全団体を1公演(各団体20分、4時間の上演時間)とすることが難しく、因グループと伯グループの2グループ(6団体ずつ2時間の公演)に分けた。グループごとの公演を、1日に両方行うことで、全てを観劇したいと思われる方のフォローはできた。

前売チケットの販売も8/31(日)の方が多かったため、来場者の見込数の予測に大きく違いはなかったが、当日券が34枚(通し券9枚、グループ券25枚)の販売があった。

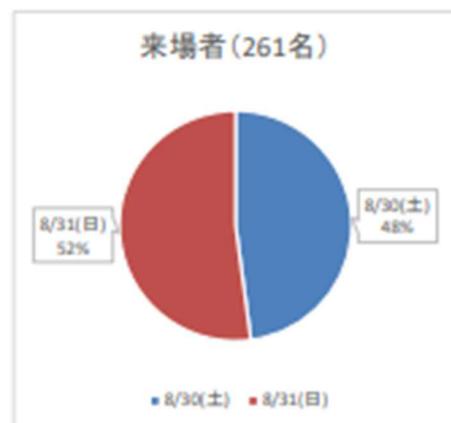
【分析】客席

8/30(土)は客席109席(上手側36席・下手側34席・中央2列19席・稼働客席中央20席)を準備した。

観客と舞台との距離をより近くにご観劇いただくため、3方向に客席を組んだ。見えにくい席がないよう、上手と下手には平台を設置し傾斜を付けたが、見えにくい席もあったとご意見を頂いた。8/30(土)の上演後に御来場者様より、稼働客席左右の解放のご提案をいただき、8/31(日)は稼働客席の左右2列16席を増席し、125席とした。

問1 どちらの公演をご覧になりましたか。

	数	割合
8/30(土)① 15:30	40	22%
8/30(土)② 18:00	48	26%
8/31(日)③ 13:00	64	35%
8/31(日)④ 16:00	31	17%
	183	100%



【分析】観客割合

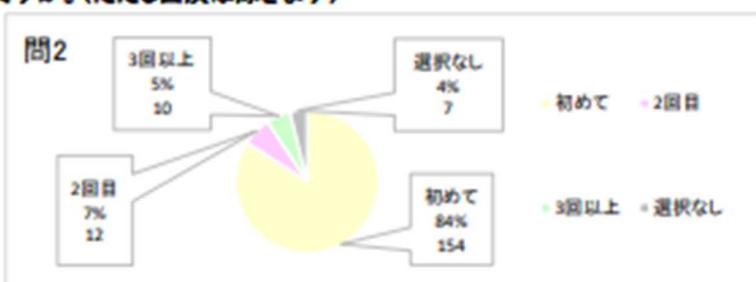
8/30(土)に125名(48%)、8/31(日)に136名(52%)、計261名の来場者があった。

土日で公演を行う場合、日曜日の来場者数が多くなるのは従来の公演と大きく違う部分は無かった。

しかし、日曜日の夜の公演は来場者が少なくなる傾向があるため、8/31(日)の上演時間を、13:00と16:00とし、一般的な日曜公演の夜公演よりも来場しやすい午後イチと夕方からという時間設定としたものの、全体的にみると、やはり日曜の夕方の公演の来場者が最も少ない結果となった。

問2 本日の催しを鑑賞されたのは何回目ですが。(ただし出演は除きます)

	数	割合
1.初めて	154	84%
2.2回目	12	7%
3.3回以上	10	5%
4.選択なし	7	4%
	183	100%



【分析】観賞回数

この度の演劇祭では、鳥取県演劇連盟より出演が3団体(鳥取市民劇場＝鳥取市、劇西創西社OHKUS＝倉吉市、演劇集団あり＝米子市)、スタッフ参加が1団体(鳥取演劇集団＝鳥取市)となった。その他の参加団体は、

<上演団体> 9団体

東部地区: 6団体(いずれも鳥取市)

(演劇企画夢ORES・演劇ユニット小妻色・劇団黄色い貨物列車・カンセイの法則・ぶんらっく・鳥取大学演劇サークル劇団あしあと)

中部地区: 2団体

(キッズ劇団きのこたけノコ＝倉吉市、ねりあめ企画＝湯梨浜町)

西部地区: 1団体(日野町)

(お芝居くらぶ さんふいーると(°o°))

<スタッフ参加> 2団体

中部地区: 2団体(劇団星のふる町＝北栄町、表現部とつりのハナコ＝倉吉市)となる。

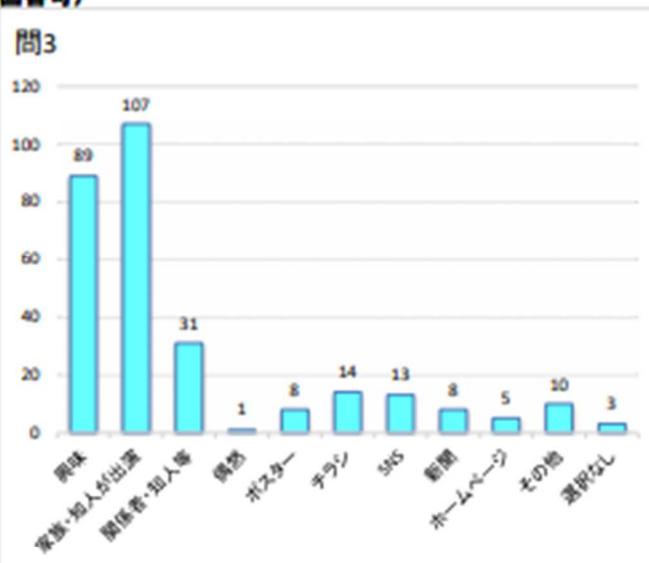
連盟外の11団体は、結成(活動開始から)5年未満が5団体、10年未満が3団体、25年以上は2団体、活動休止中の劇団名で参加した1団体となる。これらの団体からの集客と考えると、コロナ禍を挟み、その後からの演劇活動が活発になった若手団体は、県演連との関わり合いが少ないため、観賞回数が「1.初めて」(154名・84%)の割合が多いと推察される。

しかし近年の実態としては、合同公演に客演として連盟外の団体との交流が生まれ、集客の面でも連携が取れてきている。

この設問の回答数については、「本日の催しを鑑賞されたのは何回目ですか。」という、事前に県(または県文化団体連合会)から設定された設問で、連盟公演を指しているように捉えられにくく、「このような演劇祭を鑑賞されたのは何回目ですか。」という問いに勘違いをさせてしまったようである(当日のお客様からの質問より)。県の設問例に従った設問形式にしたが、今後は設問の表現に対して慎重であるべきだと感じた。

問3 本日の催しを鑑賞された理由を教えてください。(複数回答可)

項目	数	割合
1.興味があった	89	30.8%
2.家族や知人が出演している	107	37.0%
3.催しの関係者や知人等に勧められた	31	10.7%
4.偶然通りかかった	1	0.3%
5.広報物を見て興味を持った ポスター	8	2.8%
5.広報物を見て興味を持った チラシ	14	4.8%
5.広報物を見て興味を持った SNS	13	4.5%
5.広報物を見て興味を持った 新聞	8	2.8%
5.広報物を見て興味を持った ホームページ	5	1.7%
6.その他	10	3.5%
7.選択なし	3	1.0%
	289	100.0%



その他の内訳:ラジオ×1、文化芸術評価委員として×1、記述なし×8

SNSの内訳:Facebook、Instagram、X(旧Twitter)等

【分析】鑑賞理由

複数回答可の設定で、回答が一番多いのは「2.家族や知人が出演している(37%)」、次に多いのが「1.興味があった(31%)」となった。従来の演劇公演でも、鑑賞理由は出演者・スタッフによる集客が多いが、「3.催しの関係者や知人等に勧められた(11%)」の中にもこの回答が含まれるとすると、約半数の48%は当公演の関係者による積極的な集客活動の成果だと推察される。

「1.興味があった(31%)」とご回答いただいた中には、今回が通常の演劇公演ではなく、『演劇祭』という多団体が一度に鑑賞できるイベントとしての開催に興味を持たれた方も多くおられるようだ。(アンケートの声)

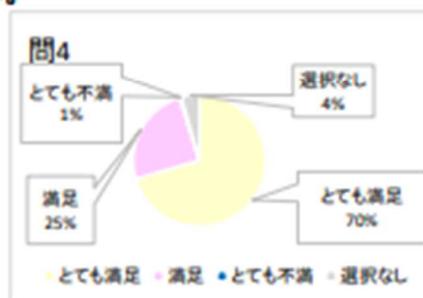
また、「5.広報物を見て興味をもった」については、ポスター・チラシ・SNS・新聞・ホームページの5つの選択肢を用意したところ、回答は全体の16.6%を占めた。ポスター・チラシの掲示・配布で7.6%、新聞2.8%、Web上のSNS・ホームページが6.2%と、各方面の広報活動が功を奏していることが分かる。

その他の内訳の中に「ラジオ」の回答があるが、今回は、公演日の前週からBSSラジオ・鳥取FMIに出演させていただき、広く告知を行うことができた。また、地元紙の日本海新聞には上演前・上演後の記事掲載をいただき、鳥取経済新聞からは上演前に取材を受け、鳥取圏にインターネット情報配信サービスで、公演の告知をしていただいた。

今後、鑑賞者を増やしていくためにも、出演者を含めた関係者による集客に努めるとともに、紙媒体やWeb広報などの幅広い情報発信の必要性を強く感じた。

問4 本日の催しの感想を教えてください。

項目	数	割合
1.とても満足	129	70.5%
2.満足	45	24.6%
3.不満	0	0.0%
4.とても不満	1	0.5%
5.選択なし	8	4.4%
	183	100%



●満足度95.1% (とても満足70.5%+満足24.6%)

【分析】問4

全体の95%以上(とても満足70%+満足25%)の方に満足して頂けた。

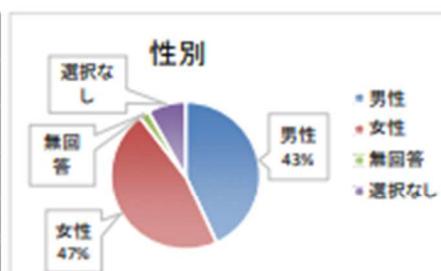
不満(とても不満)と回答された方が1名おられたが、アンケートの文章を見ると、「西部地区(米子)から来ましたが 中、東部の方々の演劇はまた違う趣があり面白かったです」と、不満を抱かれたようなコメントではなかったため、選択を誤られたのか定かではない。

問5 本日の催しの感想(良かった点・悪かった点・その他ご意見)をご自由にお書きください。

(別紙ご参照)

性別

	数	割合
男性	79	43.2%
女性	85	46.4%
無回答	4	2.2%
選択なし	15	8.2%
	183	100.0%



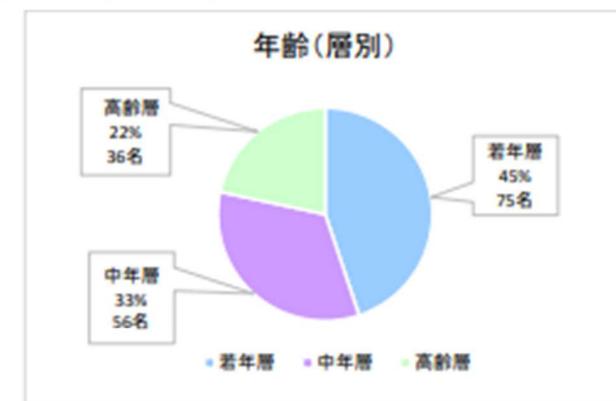
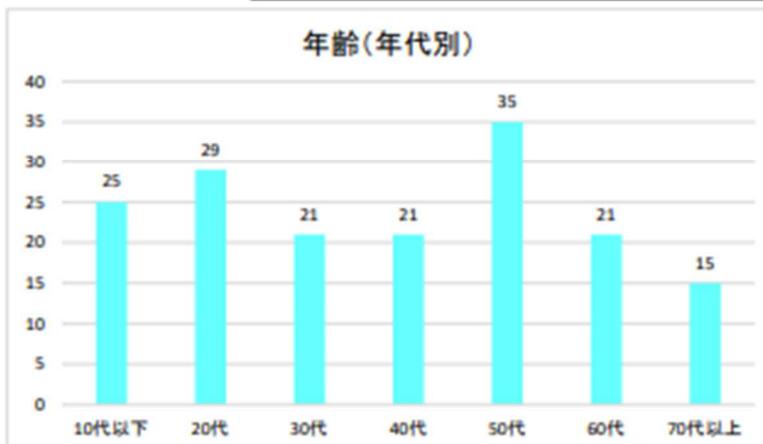
【分析】性別

男性(43%)、女性(47%)と、男女差は大きくなく、どちらの性別にもご来場いただいた。
無回答を選択された方が2.2%、選択されなかった方が8.2%と、男女と性別を回答されなかった方が10.4%おられた。

元々は男女しか選択肢がなく、昨今の状況を踏まえてジェンダーに配慮した形式をとったが、県が設定するアンケート項目に性別の選択が必要なか疑問がある、というスタッフの意見があったことを付け加えておく。

年齢

項目	数	割合	層別割合	
10代以下	25	13.7%	若年層	44.9%
20代	29	15.8%		
30代	21	11.5%		
40代	21	11.5%	中年層	33.5%
50代	35	19.1%		
60代	21	11.5%	高齢層	21.6%
70代以上	15	8.2%		
選択なし	16	8.7%		
	183	100.0%		



【分析】年齢

今回のキャスト(全38名)は小学1年生から60代までと年齢が幅広く、鑑賞者の年代にかたよりがなく、様々な年代の方がお客様となりご鑑賞いただいた。

今回の参加メンバー(キャスト・スタッフ)は、若者層の学生(小学生・中学生・高校生・大学生)や、20代の割合が多かったため、若者層のご来場者が多い結果となった。

また、参加メンバー(キャスト・スタッフ)の年齢についても、観客の年齢層とほぼ変わらない割合であったので、参加者が同世代の集客を行ったと推察される。

今後の担い手となる若者が多く来場してくれたのは嬉しい事であった。

お住まい

項目	数	割合
鳥取県東部	120	65.6%
鳥取県中部	12	6.6%
鳥取県西部	18	9.8%
その他	19	10.4%
選択なし	14	7.7%
	183	100.0%

その他内訳

	回答数	地域	割合
岡山県	5	中国	47.4%
広島県	1		
鳥取県	3		
香川県	2	四国	15.8%
徳島県	1		
兵庫県	3	近畿	15.8%
関東	2	関東	10.5%
沖縄県	2	九州	10.5%
	19		100%

【分析】お住まい

とりぎん文化会館(鳥取県東部)での公演の為、鳥取県東部地区からの来場が多かった。

今年1月の連盟公演(第48回 同会場)での公演時は、県東部地区からの来場が約80%だったが、今回は県内の12の団体(東部7団体・中部3団体・西部2団体)の参加があり、今回は中西部からのご来場が多くあった。

鳥取県外への広報はWebのみであったが、参加メンバーのSNSなどで情報発信を行い、19名(10.4%)のご来場があった。SNSでの広報が功を奏した形が見えた。